金日成主席とチュチェ思想

（歴史的な対外活動の日々に）

朝鮮社会科学者協会

2017

目　　次

まえがき

チュチェ思想の創始者である金日成主席は、生涯の全期間、人類の外交史においてその類を見ない精力的な対外活動をくり広げた。

金日成主席の対外活動は、時代と人類思想発展に寄与した功績において古今東西の有名な偉人たちとも比肩できない特出したことにより、かつて広範な世界の報道界の耳目を集めた。

かつてと同様、今日も世界の多くの国の新聞、通信、放送は金日成主席の歴史的な対外活動のニュースを広く紹介している。

金日成主席は対外活動をくり広げる全期間、自主と進歩を志向する世界 5 大陸の多くの国の人民が自由で繁栄する新しい社会を建設するための闘争を成果的にくり広げるようエネルギッシュに指導した。

その日々、金日成主席は世界の多くの国の人士を接見し、彼らに主席の創始したチュチェ思想の原理とそれを具現する上で収められた貴重な経験と成果について情熱的に解説し、自主偉業を力強く早めるよう大きな信念と勇気を与えた。

金日成主席が人類の自主偉業の遂行に関しておこなった教示は、朝鮮労働党の出版社で発行している「金日成著作集」をはじめとした単行本にそのまま収録、保存されている。

今日、金日成主席の著作は、大きな牽引力をもって世界的に多くの国の出版社で翻訳、出版されて広く普及され波及されている。

世界の広範な人民は金日成主席の著作を朗読しながら今日も自主的な人生を開拓し、新社会を建設するための闘争で新しい力と勇気を得ている。

この図書では「金日成著作集」に収録された教示の中で、世界各国の人士を接見しながらチュチェ思想の原理とその実践的具現の経験、朝鮮の統一と世界の自主化に関しておこなった教示の内容を主題別にまとめて編集している。

傑出した思想理論家金日成主席

今日、世界の進歩的人民の心の中には、時代と人類を光明と進歩の道に導く傑出した思想理論家としての金日成主席の偉人像が永遠に刻まれている。

ふり返れば、去る 20 世紀、世界革命運動の傑出した偉人である金日成主席を接見するために世界 5 大陸の多くの人士が朝鮮を訪問して主席と意義深くて印象深い対面をした。

金日成主席は革命と建設を指導する多忙の中でも貴重な時間を割いて彼らを接見してくださった。

解放直後から生涯の最期の時期まで 136 カ国の国家元首及び政府首班、党首 400 余命をはじめ、延べ 7 万余命の外国人を接見してくださった。

金日成主席の接見を受けた人々はみな、20 世紀を自主の世紀に輝かせる上で大きな貢献をなした不世出の偉人たちにたいする驚嘆や敬慕の声が高まった。

彼らは一致して、金日成主席は優れた思想的・理論的英知を備えた 20 世紀の優れた思想理論家であると激賛した。

金日成主席にたいする熱烈な激賛は日増しに高まり、その日々に金日成主席の特出した偉人像は世界の進歩的人民の心の中に消すことのできない心象のように大事に位置づけられた。

歳月が流れて 21 世紀の 20 年代を目前にしている今日にも世界の進歩的人民は、チュチェ思想を創始し、チュチェ思想で朝鮮と世界を賢明に指導してきた偉大な思想家、指導者としての金日成主席の偉人像を深く秘めている。

ここではまず、世界各国人士の心の中に深い印象を残した金日成主席の偉人像の中で一部だけを言い触れようと思う。

これは下記に叙述する金日成主席の教示の内容を理解する上で一定程度の助力になれば幸いと思う。

自主性が第一

世界各国の人士が金日成主席を接見してから強い印象を受けるようになるのは、主席が自主性を第一とし、自主的立場の並外れて強い方であるからである。

それは主席がおこなったすべての教示が自主性の問題から出発し、自主の筋金を通していることで一貫していることにも見いだせる。

金日成主席は接見する各人士に、人間は自主性がなければならず、国と民族も自主性がなければならないとし、いかなる条件や環境の下でも自主的立場を固守しなければならないと常に強調した。独立する前にも自主の旗を掲げなければならず、独立後も引き続き掲げなければならないということ、自主は社会のある一分野だけではなく、政治、経済、軍事、文化のすべての分野に具現しなければならないということ、困難で複雑な時ほど、ましてや小さな国であるほど堂々と自主的尊厳と栄誉を守りぬかなければならないと教えている。

事大主義と教条主義、支配主義が蔓延し、帝国主義、支配主義者の強権や専横が横行していた去る世紀に自主の筋金を通して生きていくという金日成主席の貴重な教示は、支配と従属に反対して闘う諸国の人民に希望と信念、力と勇気を与える生の活力素となった。

それゆえ、元ブルキナファソ政府代表団を引率して朝鮮を訪問し、金日成主席の接見を受けた団長は、自分の激動した心境をこのように吐露した。

「他国にたいする依存心を捨てて自分の信念どおりに仕事をおし進めるならば、必ず成果を収めることができるということを閣下の教示を通じて切に悟りました。

実に自主性はわれわれの生命です。われわれが生きていく出路は自主性を守る道一筋です。

われわれは閣下がくださったこの貴重な鍵を手にして帰ります」と、

実に、金日成主席は自主性を第一とし、自主的立場のたいへん強い方であった。

独創的な眼目、該博な知識

金日成主席は自主的立場がたいへん強かっただけでなく、独創的な眼目と該博な知識を兼備した卓越した政治家、どの分野においても博識で見聞の広い思想理論家であった。

金日成主席は談話の過程に提起されるすべての問題について常に独創的な眼目で対した。

正直に言って、世界各国の人士らが提起した諸質問はいずれも以前の時期には提起され得なかったし、また前人未到の問題であった。

ここには一国で自由と独立を成し遂げ、社会的進歩と繁栄をなす問題から帝国主義と支配主義者の侵略と戦争策動に反対し、世界の平和と安全を保障する問題など、公正な国際秩序を確立する問題に至るまですべての問題が全部包括されていた。

従来のどの古典にもなかったこうした諸問題、新たな社会歴史的環境の中で算出される未解明の問題に解答を与えるためには、教条主義と既存観念の古い枠内から大胆に脱して、新しくて独創的な眼目をもって対すべきであった。

金日成主席は独創的な分析力と判断力を備え、そんなに複雑多難な世界政治のすべての問題を明哲に解剖し、その本質だけでなく解決の方途についても解明している。

そして常に強調したのはそれぞれ異なる社会歴史的条件でおこなわれる各国の革命を一つの処方をもってしてはできない、革命は輸出することも、輸入することもできない、したがって、既存の公式に執着し、他国の経験を

鵜呑みにしようとせず、自国の具体的条件と実情に合う独自的な戦略と戦術を見出すべきであり、革命と建設で提起されるすべての問題を自力で解決しなければならないということであった。

金日成主席は独創的な眼目ばかりでなく、該博な知識ですべての問題について明哲な解明を与えている。

主席が備えたすべての思想と理論の幅や深度は広くて深奥であった。政治、経済、軍事、文化などすべての分野を包括しているだけでなく、甚だしくは各国の歴史や文化、民族的な生活風習に至るまで及ばない領域はなかった。

その知識の幅や深度は計り知れないし、文字通りそれは一つの大百科全書を思わせた。

提起されるすべての質問について博識であり詰まるところがなかった。広い大海のようにその端を知り得ず、突き詰めれば突き詰めるほどその深度が計り知れなくて外国の人士たちは主席の該博な知識に驚きと驚嘆を禁じ得なかった。

「私はもっともりっぱな恩師である主席閣下から実に多くのことを学びました。

私は自分を熱性あふれる『聴講生』であると評価できると思います。

私は主席閣下が与える教示を受け、政治的思想的に多くのことを学びました」

これは去る世紀80年代に金日成主席の接見を受けた元オーストリア共和国の首相でありオーストリア社会党名誉委員長であり、国際社会党副委員長であるブルノ・クライスキが吐露した真の声である。

整然とした論理、人民的な文筆作法

金日成主席は世界各国の人士と談話をする時には常に整然とした論理の中で人民的な述語を込めて味わいのある言葉で話した。

金日成主席の教示はすべて理路整然とし、一目瞭然としたのが特徴である。

金日成主席は思想と政見を異にし、皮膚の色と言語、歴史と民族的生活風習が異なる世界各国と地域の多くの外国人士と話を交わしながらも生活の論理、性格の論理に合わせて味わいのある対話をして彼らの心の苦衷をすぐにおしはかってくださった。そして彼らの提起する問題がいくら複雑にこんがらかっている難問であってもその本質を掘り下げ、その解決策についても具体的に解明した。

金日成主席の接見を受けた外国の人士たちは現実的妥当性と科学性をもって生活と歴史の論理を順々に、説得力をもって展開する主席を仰ぎながら、主席の分析力と判断力、駆使力に感嘆を禁じえなかった。

金日成主席のすべての教示は、世界のどの国の人々もすぐ理解できる通俗さや生活性が結ばれた人民的なものであった。

主席が対話をしながらいくら複雑で解剖しにくい社会的問題であっても、ややこしくて難解な政治述語や生硬な概念ではなく、味わいのある歴史物語や平凡な生活史の中で展開し、通俗的な成句やことわざ、こっけいなユーモアを混じりながら分かりやすく解説してくださった。

金日成主席がすべての問題についてどんなに分かりやすく説明したかについてはフィデル・カストロの言葉を通じてもよく分かる。

「金日成主席は一つの問題を話すにしてももっとも豊富な内容を込めて分かりやすくお話をされます。しかし私は問題をそのように深く説明する能力がありません。

金日成主席は私の恩師であり卓越した領袖です。」

西半球で最初の社会主義国家を打ち立てた権威ある革命家であり、「1年に400日間話しても疲れることを知らない多弁家」として世界に知られた多知多識家であった彼もこのように賛嘆の声を上げたのである。

世界の進歩的人士はみな、大きな興奮と期待の中で主席の言葉を肝に銘じ、自分たちの進むべき道について熟知するようになり、新たな信念と勇気をもって新社会の建設を目指す闘争を展開しながら真の生活を開拓している。

即席で与える明快な解答

金日成主席を接見するためにわが国に来た人士の絶対多数は、国の独立を成し遂げ、新社会を建設する過程で提起される難問にぶつかっている人々であった。長い間、苦心していた問題にたいする正しい解答を探すために遠路はるばる訪朝してきた人々なので、一致して主席との接見を懇切に要請し、接見の席上では最初から主席に諸問題にたいする質問を忌憚なく提起した。

去る世紀70年代に金日成主席を接見するために訪朝した社会主義国のある首班は、社会主義を建設しながらさまざまな圧力と誹謗中傷のために頭を悩ませていると心の中にこびりついていたしこりをあけすけに言うなり、アフリカのある国の人士は独立して間もないが、正しい自己式の路線ではなく、他人式を模った路線であることにより、重大な後腐れが醸し出されていることを嘆きながら助言を聞きたいという願いもしたりした。

世界各国の人士が切に要請して提起した質問を見ればどれもみな、緊急を要する重要な問題であった。

実に慎重でありながらも複雑な質問であったが、金日成主席は主体的信念がみなぎる確固たる意志と明哲な分析判断力、整然とした論理で提起されるすべての問題について即席で明快な解答を与えている。

ここに金日成主席の偉人像について感服した旧ソ連共産党中央委員会

書記であったアンドロポブの回想談の一つを紹介するようになる。

1982 年のある日、彼は 1963 年 1 月に金日成主席を訪問した時を回想しながらこう言った。

「わたしはソ朝関係がいちばん悪いときに朝鮮を訪問した。そのとき、金日成主席は各党の問題について分析したが、いまになってみると当時の分析がぴったりと合っている。それゆえ、われわれは金日成主席について高く評価し敬慕する」と。

一寸の間隔もなしに、気さくな対話

金日成主席を接見しに訪朝した人々の間にはかつて、帝国主義者の反共和国策動に加担して罪を犯した政客もおり、反共イデオロギーを信条にしながら悪宣伝に同調した人物もいた。

たとえ政治的信条や経歴は互いに異にし、かつて誤りは犯したが、かれらを決して差別せず、些細な間隔もとらなかった。

金日成主席は新たな決心と覚悟をもって数千、数百里の遠路を訪ねてきたかれらの気持ちをおしはかり、広い度量とこの上ない人格でかれらを常に親しく対し、一寸の間隔もなしに気さくに対話を交わした。

「わたしは今まるで夢を見ているようです。わたしがどうして全世界が仰いでいる主席閣下の友人になれるでしょうか、それは一介の記者に過ぎないわたしにとって身に余ることであると思います」

これは 1989 年の当時、北京駐在のイタリアラジオ・テレビ放送会社の支局長イラリオ・ピオレに施した金日成主席の大いなる徳望に感激して叫んだかれの心からの声だった。

主席の接見を受けた世界各国の人士はみな該当諸国の社会的な問題だけでなく、自分たちと家族の将来の問題や食生活の水準と程度、健康の問題、暮らし向きにいたるまで細心に見守る主席の限りない愛情と人情に目頭が

熱くなった。

それでかれらはみな金日成主席を接見した瞬間から主席の限りなく広い度量と暖かい人格に完全に魅了された。

チュチェ思想にたいする確信

金日成主席は外国の人士が提起する質問に解答を与えるときに、常にチュチェ思想から出発してすべての問題を解剖、分析し結論を下している。

チュチェ思想の原理からはじまり、その具現において提起される実践的な問題にいたるまで、いちいち具体的に話してくださった主席の教示は、かれらをしてチュチェ思想の正当性と生命力にたいする確信をさらに固くさせた。

全世界が自主性を求めているこんにちの世界で自主性は民族の生命であり、自主性を実現するためには人民の力を信じ、自国の実情にあうようにすべきである、他人を見、それに依存すれば滅ぶが、自分の力を信じ、人民大衆に依拠すれば必ず勝利する。政治的独立をなしとげたのち、もっとも重要な問題は自立的民族経済を建設することである、資本主義ではなく社会主義へと進んでこそ、国と民族の繁栄を遂げることができ、人民大衆をあらゆる搾取と抑圧から解放することができるということとその具体的な方途にたいする主席の教示は、その真理性と正当性によって彼らの心を強くゆさぶった。

感激して主席の教示を受けたかれらは一致して「偉大な金日成主席はチュチェ思想を一身に体現しておられる偉大な思想理論家」「チュチェ思想こそ、現代にもっとも科学的な解答を与える偉大な思想」「人間の尊厳と価値を絶えず高めた思想」と賛辞を惜しまなかった。

金日成主席を接見した人士たちの決心と意志は一つに志向された。

世界と人類が進むべき道は、チュチェ思想が指し示す道であり、この道

こそ、国と民族が生きる道、繁栄の道であるということである。

チュチェ思想が指し示す道を進むとき、人類の世界的志向と念願である自主性を完全に実現し、全世界の平和と繁栄を遂げることができる。

これは金日成主席を接見した後、世界の進歩的人士がもつようになった確信であった。

1.人間の運命開拓とチュチェ思想

20 世紀 30 年代初、金日成主席が創始したチュチェ思想は人間中心の哲学思想として人間の運命を開拓し、社会と歴史発展を促すうえで提起されるすべての理論的実践的問題に正しい科学的解答を与えている。

ここでは人間中心の哲学思想としてのチュチェ思想がどのように創始され、それがどのような内容からなっているかについておこなった金日成主席の教示の内容について触れることになる。

1）チュチェ思想の創始とその正当性と生命力

チュチェ思想は静かな書斎でではなく、荘厳な革命闘争の実践の中で創始され、その正当性と生命力が検証された思想である。

金日成主席は 1972 年 10 月 6 日、日本政治理論雑誌「世界」編集局長とおこなった談話をはじめ、諸談話でこれについて解答を与えている。

成長過程にぶつかった二つの問題

チュチェ思想をもつようになった原因を説明するためには、わたしの成長過程にぶつかった二つの問題について話さないわけにはいきません。わたしの成長期、とくに学生時代に目撃し感じたことのうちで、もっとも正しくないと思った事柄が二つあります。

その一つは、朝鮮の民族解放運動をおこなうという共産主義者や民族主義者が、大衆から浮きあがり、上層部のものが何人かそれぞれ寄り集まっては空理空論といい争いをするばかりで、実際の革命運動に大衆をふるいたたせようとしなかったことです。全人民大衆を組織し動員してこそ、革命運動

は成功するはずなのに、その人たちは大衆と離れ、自分たち同士寄り集まってヘゲモニー争いばかりし、互いに自分のほうが偉いのだといって「理論」闘争ばかりしていました。その「理論」たるや革命を発展させるための理論ではなく、革命活動とはなんのかかわりもない奇弁でしかありませんでした。それでわたしは、かれらのようにしじゅう向かいあって論争ばかりし、大衆運動を展開しないのでは、どうして革命を成功させることができようかと考えるようになり、そういう現象を批判的な目で見はじめました。

革命闘争の主人は人民大衆であり、人民大衆が立ち上がってこそ、革命闘争で勝利をかちとることができるのです。ところが、上層部の少数の人たちが人民大衆からかけはなれて空理空論にふけっていたのでは、それがいったいなんの役に立つだろうか、ということをわれわれは慎重に考えずにはいられませんでした。大衆のなかに入りかれらを目覚めさせて、大衆自身が主人となって革命闘争をおこなうようにすべきであって、幾人かの上層部の人たちが寄り集まって議論ばかりしていたのでは、問題が解決されるはずがありません。それでわれわれは、主体性について、すべての問題を解決する基本は人民大衆自身にあるということについて、強調するようになりました。

つぎにわたしがぶつかったもう一つの問題は、共産主義運動を神秘視するところから生まれたものか、それとも、ヘゲモニー争いから生じたものか、あるいは事大主義に根ざすものなのか、当時朝鮮共産主義運動内部に派閥が多かったということです。当時わが国には、M・L 派、火曜派、北風会派など派閥がたくさんありました。これらの派閥は、コミンテルンの承認をうけようとして、めいめいがコミンテルンもうでをしました。自分自身さえ共産主義運動をりっぱにおこなえば、おのずと認められるはずなのに、かれらは革命運動はおこなわずに、三人一党、五人一派といったふうに、それぞれ党派をつくってコミンテルンの承認をえようと歩きまわりました。かれらは、それぞれ自分たちこそ「正統派」であり、真のマルクス主義派であるといいました。こういうわけで、朝鮮共産党は 1928 年にコミンテルンから除名さ

れ、結局党は解散を余儀なくされました。われわれは、これを朝鮮民族の恥だと思いました。自分で革命運動をりっぱにおこなえば、わざわざ他人の承認をうけに行かなくても、おのずと認められるはずではありませんか。必ず、他人の承認をえなければ、共産党といえないのでしょうか。誰かの承認をうけてから革命運動をおこなう必要はないのです。革命運動をしたければ、自分でするものです。自分でしっかりやりさえすれば、誰が承認しようとしまいとかまわないではありませんか。自分で革命をりっぱにおこないさえすれば、おのずと他人が認めるはずなのに、なんのために他人の承認をうけようと仰々しく立ちまわらなければならないのでしょうか。

われわれは、このように朝鮮の民族解放運動と共産主義運動の内部に派閥争いが激しく、また上層部の人たちが人民大衆から浮き上っていた、こうした二つの現象をみて、革命をそのようにおこなうべきではないという強い刺激をうけました。われわれは、人民大衆のなかに入り、かれらに依拠してたたかわなければならないということ、また、自己の問題は自らが解決すべきであり、自分自身がりっぱにたたかいさえすれば、他人の承認をうけるうけないが問題ではないということを痛感するようになりました。

こうした二つの側面が、わたしの革命思想の発展に大きな衝撃を与えました。このときから、われわれは人民大衆が革命の主人であり、したがって人民大衆のなかに入らなければならないということ、誰が承認しようとしまいと、自国の革命を自ら責任をもって自主的に進めてゆくならば、他の国ぐにからおのずと同情され、認められ、援助をうけることもできるということを強調するようになりました。これが、われわれのチュチェ思想の出発点であるといえます。

革命闘争の中で検証されたチュチェ思想の正当性と生命力

わたしは革命闘争をはじめた当初から、革命の主人は人民大衆であるとみなし、人民大衆に依拠して自力で革命闘争をおこなうべきであるという思想を明らかにしました。われわれはこの思想を指針とし、人民大衆の力に依拠して日本帝国主義者に抗する 20 年余の困難な闘争をおこない、解放後、新しい祖国の建設とアメリカ帝国主義侵略者に抗する 3 年間の祖国解放戦争もおこない、戦後の復興建設と社会主義革命もおこないました。われわれは長期にわたる各段階の革命闘争過程を通じてチュチェ思想の正しさを実証しました。

われわれは、朝鮮革命の歴史的経験を分析、総括し、それにもとづいて険しい革命の進路をかきわけていく過程で、革命と建設の主人は人民大衆であり、革命と建設をおし進める力も人民大衆にあるというチュチェ思想をもつようになり、革命闘争と建設事業をつうじてそれをいっそう発展させ、豊富にしました。

われわれはまた、革命闘争の過程で、事大主義と教条主義に反対して主体性を確立し、他国に盲従盲動せず、自主性を堅持し、他国への依存心をすて自力更生してこそ革命と建設を成功裏に進められるという真理を体得しました。

2）チュチェ思想にたいする一般的理解

1981 年、金日成主席はガーナ政府機関紙「ガーナ・タイムズ」主筆を接見した席でチュチェ思想について簡単明瞭、かつ整然とした分かりやすい話をしてくださった。

ここでは金日成主席が人間中心の独創的な思想としてのチュチェ思想

の本質と真髄、基礎と要求に関連しておこなった教示の内容を重点的に示している。

チュチェ思想は本質において人間本位の哲学

チュチェ思想は人間本位の哲学です。これは、チュチェ思想が人間を哲学的考察の中心にすえ、人間の運命の問題に解答を与えることを自己の使命とする哲学であることを意味します。

チュチェ思想は、人間の本質的属性と世界における人間の地位と役割を明らかにすることによって、人間の運命を切り開く正しい方途を示す科学的かつ革命的な世界観を与えます。

チュチェ思想の基礎は人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという哲学的原理

チュチェ思想は人間をあらゆるものの主人、すべてを決定する要因とみています。人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するということ、これがチュチェ思想の基礎であります。

人間があらゆるものの主人であるということは、人間が世界を支配する主人の地位にあるということを意味します。人間は自主的な存在であるため、周囲世界に従属して生きるのでなく、自然と社会を支配しながら生きるのです。世界で自主性をもつ存在はひとり人間のみであり、したがって人間は世界を支配する唯一の主人となります。

人間がすべてを決定するということは、人間が世界を改造し変革する役割を果たすということを意味します。人間は創造的な存在であるため、周囲世界に順応するのではなく、自然と社会を改造し変革しながら生きるのです。世界で創造的力をもって目的意識的に活動する存在はひとり人間のみであ

り、したがって人間は世界を改造し変革する唯一の創造者となります。

チュチェ思想の真髄は、人間は自己の運命の主人

人間は世界を支配する主人の地位にあるので、自己の運命にたいしても主人となり、また人間は世界を改造し変革する役割を果たすので、自己の運命を切り開くうえでも決定的な役割を果たします。結局チュチェ思想は、人間は自己の運命の主人であるという真理を明らかにしています。人間は自己の運命の主人であるということ、これがチュチェ思想の真髄であり、ここにチュチェ思想の革命的本質があります。

チュチェ思想の要求はすべてを人間を中心に考え、すべてが人間に奉仕

チュチェ思想はすべてを人間を中心に考え、人間に奉仕させることを要求します。すべてを人間を中心に考え、人間に奉仕させるのは、世界を認識し改造するうえで堅持すべきもっとも一般的な方法論です。

すべてを人間を中心に考え、人間に奉仕させるということは、人間を最優位におき、人間との関係のなかでいっさいの事物現象を考察して対応し、自然と社会のすべてのものを人間の自主的志向と要求の実現に役立たせるということを意味します。

世界でもっとも貴いのは人間であり、世界のすべてのものは人間に有益で人間に奉仕してのみ価値があります。したがって、すべての活動において、人間の自主的権利と利益を擁護することを最高の原則とし、世界のすべてのものを人間の自主的志向と要求を実現することに服従させなければなりません。

世界でもっとも強力な存在は人間であり、世界のすべてのものは人間の

創造的活動によってのみ、人間に有益に改造されます。したがって、自然と社会を改造するすべての活動において、人間をより強力な存在につくりあげることを第一工程とみなすべきであり、革命と建設におけるすべての問題を、人間の創造的役割を高める方法で解決していかなければなりません。

3）新たに解明された人間の本性

チュチェ思想は人間の本性をはじめて新たに解明した。

人間にたいする最初になる科学的な解明、まさにここに以前の革命思想と異なるチュチェ思想の独創性があり、それを創始して展開した金日成主席の思想理論的英知の非凡さがあるのである。

金日成主席は、人間は自主性、創造性、意識性をもった社会的存在であると、1982 年 6 月 22 日、ネパール RSS 通信社社長をはじめとした人士たちに会った席で触れている。

人間は自主性をもった社会的存在

人間は自主性をもった社会的存在です。

自主性は、世界の主人として自由に生きようとする人間の性質です。自主性ゆえに、人間はあらゆる束縛と従属に反対し、すべてを支配する自主的存在となります。社会的存在である人間にとって自主性は生命です。まさにそれゆえに、自主性を失った人間は、生きてはいても屍とかわるところがないのです。

朝鮮には、かつてわれわれが抗日革命闘争の初期からうたった歌があります。朝鮮の青年はいまもその歌を好んでうたいます。その歌には、人は人として自由権をひとしくもって生まれしもの、自由権なければ生ける屍、生

命すてても自由は守る、というくだりがあります。

人間が社会的に自主性を失うならば、人間とはいえず動物となんら変わるところがありません。社会的存在である人間にとっては、肉体的生命よりも社会的・政治的生命が大事であるといえます。たとえ命はつながっていても、社会的に見捨てられ、政治的自主性を失うならば、社会的人間としては屍も同然であります。まさに、そのために、革命家は他人の奴隷となって命を保つよりは、自由のためにたたかって倒れるほうが何倍も栄光であると考えるのです。

自主性を無視することは、人間そのものを無視することとなんら変わりがありません。他人に従属して生きることを喜ぶ人がどこにいるでしょうか。なぜ、以前には人びとが封建制度をくつがえすためにたたかい、今日では労働者階級が資本主義制度に反対してたたかっているのでしょうか。それはいうまでもなく、勤労者が封建的な奴隷生活からぬけだすためであり、資本主義的な搾取と抑圧からぬけだすためであります。われわれが帝国主義に反対してたたかうのも、朝鮮民族を帝国主義の従属から完全に解放し、自主権をもった民族として自由に暮らすためであります。

人間は創造性をもった社会的存在

人間は創造性をもった社会的存在です。

創造性は、自主的志向と要求に即して世界を改造していく人間の性質です。創造性ゆえに、人間は外部世界に盲目的に順応するのではなく、自然と社会を目的意識的に改造していく創造的存在となります。

人間が創造性をもっているということは、自分の意思と要求にそって自然と社会を改造する、創造的能力をもっていることを意味します。

自主性と創造性は人間のもっとも本質的な属性です。人間は自主性と創造性をもっているがゆえに、あらゆるものの主人、すべてを決定する要因と

なります。

人間の自主性と創造性は密接なつながりをもっており、統一的に発現します。人間は自主性があってこそ創造性を発揮することができ、創造性を発揮してこそ自主性を堅持することができます。人間に自主性がなければ創造性を発揮できず、創造性が発揮できなければ自主性を実現することができません。

人間は自主性と創造性をもっているがゆえに、世界の他のすべての存在と区別される特殊な存在となり、世界で特殊な地位をしめ、特殊な役割を果たします。

人間にとって意識性は重要な属性

自主性と創造性は意識性によって裏打ちされます。人間の自主性と創造性は意識的に作用する属性であり、人間の自主的で創造的なすべての活動は意識的な性格をおびます。したがって、意識性は人間の重要な属性となります。

自主性と創造性、意識性ゆえに、人間は世界で特殊な地位をしめ、特殊な役割を果たす存在となります。いいかえれば、自主性と創造性、意識性ゆえに、人間は世界を支配する唯一の主人に、世界を改造し変革する唯一の創造者となるのです。

４）社会と革命の原理

チュチェ思想は人間の本性を新たに解明しているだけでなく、人民大衆を中心にして社会発展の合法則性と革命運動の原理も解明している。

これについて金日成主席は 1982 年 6 月 22 日、ネパール RSS 通信社社長の質問にたいする回答と各機会に触れている。

社会的運動は歴史の主体である人民大衆によって実行

チュチェ思想は、人民大衆を中心として社会発展の合法則性と革命の原理を明らかにしています。

歴史の主体は人民大衆です。これは、歴史の中心には人民大衆が立っており、社会的運動は人民大衆によって進められるということを意味します。

社会は、停止するものではなく、たえず運動し発展します。社会の運動、発展の過程は、歴史の主体である人民大衆の地位と役割が高まる過程です。

社会的運動の担当者は人民大衆であり、社会発展の原動力もほかならぬ人民大衆であります。人民大衆の能動的活動によって社会的運動が進められ、人民大衆の自主性と創造性にもとづいて社会が発展するのです。人民大衆の自主性と創造性が高まり、それにともなって社会が運動し発展するのが社会発展の合法則的過程だといえます。

社会的運動は人民大衆の自主的要求によって起こり、人民大衆の創造的能力によっておし進められます。人民大衆の自主的要求と創造的能力がたえず高まり、それにともなって社会が改造され変化していくのが社会発展の合法則的過程です。

革命は人民大衆の自主性を擁護し実現するための組織的な闘争

革命は本質において人民大衆の自主性を擁護し実現するための組織的な闘争であります。革命によって古い社会関係と社会制度が改造、変革され、革命闘争の過程で人民大衆の社会的地位と役割はさらに高まります。

…　…　…

革命の最終的目的は人民大衆の自主性を完全に実現することにあります。人民大衆の自主性を完全に実現するためには、階級的または民族的支配と従属を一掃し、思想、技術、文化など社会生活のすべての分野で旧社会の

遺物を完全になくし、社会関係と生産力を高度に発展させなければなりません。

革命の主人は人民大衆であり、革命をおし進める力もまた人民大衆にあるという革命の原理から、それぞれの国における革命の主人はその国の人民であり、革命勝利の要因もその国の人民の力であるという結論がでます。

5）チュチェ思想の具現における重要な問題

チュチェ思想は机上の空論ではなく、実践の威力ある武器である。

金日成主席はチュチェ思想を朝鮮革命の実践に具現する過程に国と民族の運命開拓と発展においてたいへん重要ないくつかの原則的な問題点を発見した。

それによると、チュチェ思想を具現するうえで重要な問題は、思想におけるチュチェ、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を貫くことである。

思想において主体性の確立

人間のすべての活動を規制するのはその思想・意識です。したがって、社会主義建設で勤労人民大衆の自覚的熱意と創造的積極性を余すところなく発揮させるためには、勤労人民大衆が革命の主人としての自覚をもって革命闘争と建設事業に主人らしく参加するようにする問題、いいかえれば、思想において主体性を確立する問題がまず解決されなければなりません。

主体性を確立するということは、簡単にいえば他人に盲目的に従ったり他人の力に頼って生きていこうとするのではなく、自分の信念をもち自分の力で生き、なにごとも自分の実情に即して、また自国の革命のためになるように処理していく立場を堅持することを意味します。

主体性をうちたてるということは、革命と建設にたいして主人としての態度をとるということですが、これはつまり、勤労人民大衆が革命闘争と建設事業で自主的な立場と創造的な立場を堅持することを意味します。主体性を確立してこそ、革命と建設を成功裏に遂行することができます。

政治における自主性の堅持

政治的自主性のない国は、たとえ大統領がおり国会があるとしても真の独立国家とはいえず、そういう国は再び外国に従属させられるものです。

自主性のない国は事実上、独立国とはいえません。自主性のない国は民族の利益を代表することができず、独立を守りとおすこともできません。

自主性を堅持してこそ、民族の独立を守れるだけでなく、富強な国の建設へと人民を奮起させることができます。

また、自主性を堅持してこそ、列強が引き起こそうとする戦争を防止することもできます。個々の国が自主的な独立国家となり、大国の指揮棒に従わなくなれば、大国は戦争を起こすことができません。したがって、自主性を堅持するのは、世界平和のためにもきわめて重要です。すべての国が自主性を堅持するなら、戦争は起こらないはずであり、世界の平和が永久に維持されるでしょう。

個々の国の革命の主人はその国の人民自身です。個々の国の人民は自国の革命にたいして主人としての態度をとり、革命と建設で提起されるすべての問題を自国人民の利益と自国の実情に即して自力で解決していくべきです。

われわれの経験によると、社会主義建設で他国の経験をうのみにするのはきわめて有害です。これは、あたかも人が物を食べるとき、十分にかんで食べれば消化がよくでき、かまずに丸のみすれば消化不良にかかるのと同じだといえます。食べ物をかんでみて、消化ができそうなら飲みこみ、そうでなければ吐きだしてしまわなければならないように、他国の経験も自国人民

の利益と自国の実情にかなったものは取り入れ、そうでないものは取り入れるべきではありません。

自立的民族経済建設

人間が社会的に完全な自主的存在となるためには独り立ちしなければならないように、国家も自主独立国家になるためには、独り立ちしなければなりません。他人に支えられて歩くのは不自由であり、またそれでは早く前進することもできません。

経済的自立は自主性の物質的基礎である。経済的に他国に依存する国は、政治的にも他国に追随するようになる。経済的に従属した民族は、植民地奴隷の運命をまぬがれず、したいこともできず、いいたいこともいえない。非同盟諸国が自主性を堅持するためには、必ず自立的民族経済を建設し、経済的自立を達成しなければならない。

経済的自立は政治的独立と自主性の物質的基礎であります。経済的自立をなしとげてこそ、民族の独立を強固にし、政治的自主権を完全に行使することができ、人民に自主的で創造的な生活を物質的に十分保障することができます。

経済的に自立するためには、自立的民族経済を建設しなければなりません。

自立的民族経済を建設することが重要です。政治的独立を守れるかいなかは、自立的民族経済を建設するかいなかにかかっています。経済は政治を裏づけます。自立的民族経済の裏づけなしには、国の政治的独立を守りぬくことができません。これは生活をつうじて検証された一つの真理です。したがって、個々の国が政治的独立を守るためには必ず、自立的民族経済を建設しなければなりません。

自立的民族経済の建設で重要なのは、国内の原料と燃料にもとづく工業を建設し、発展させることです。

歴史的経験は、帝国主義者が植民地諸国に政治的独立を与えるものではなく、発展途上諸国に経済的自立も与えてくれないことを示しています。発展途上諸国は「国際通貨基金」の世話になろうとするのではなく、自分の力で自立的民族経済を建設すべきです。

発展途上諸国が経済的に自立する道は二つあります。その一つは自力更生、刻苦奮闘して国内資源を最大限に動員、利用することであり、もう一つは集団的自力更生の原則で南南協力を実現することです。これは結局、自分の力を信じて自立自活する同じ道だといえます。

南南協力は発展途上諸国が経済的、技術的に互いに協力し、交流して経済的自立を達成するための崇高な事業です。南南協力を発展させれば、発展途上諸国は自立的民族経済を成功裏に建設できるだけでなく、不公平な旧国際経済秩序をうちこわし、公正な新国際経済秩序をうち立てることができます。

国防における自衛の実現

自主独立国家はかならず国防において自衛を実現しなければなりません。自衛的国防力がなくては、帝国主義者のあらゆる侵略と干渉をはねのけ、民族の独立と革命の獲得物を守りとおすことができません。

国防における自衛の実現は、国防建設分野で主人としての態度を堅持する原則です。

世界に帝国主義が残っているかぎり、自主独立国家はかならず敵の侵略をしりぞけることのできる自己の強固な国防力をもっていなければなりません。自衛的国防力なくしては、民族の独立を守ることも、革命と建設の成果を防衛することもできません。自衛的国防力は、政治的自主性を堅持し、経済的自立をなしとげる確固たる軍事的保障であります。

２．朝鮮革命とチュチェ思想

勝利と栄光にみちた朝鮮革命の全過程はチュチェ思想の具現で一貫している。

金日成主席は朝鮮労働党がチュチェ思想を起点として朝鮮革命を指導し、それを革命と建設に徹底的に具現するようにした。

チュチェ思想に根を下ろした朝鮮労働党の路線と政策

わが党と共和国政府のすべての路線と政策はチュチェ思想に根ざしており、チュチェ思想を具現しています。朝鮮人民が革命と建設でおさめたすべての成果は、チュチェ思想を具現するたたかいの輝かしい結実です。

朝鮮労働党は、抗日革命闘争の深い根源から育ったチュチェの革命的党であり、豊かな闘争経験と洗練された指導力をもつ老練な党です。わが党はチュチェ思想にもとづいた正確な闘争目標と革命路線をもって社会主義偉業を勝利の道に導いています。

チュチェ思想は朝鮮革命の要求から発し、また朝鮮革命の歴史的経験にもとづいてわれわれが提示した朝鮮革命の指導思想です。朝鮮労働党とわが共和国政府の路線と政策はすべてチュチェ思想にもとづいており、チュチェ思想を具現しています。チュチェ思想の正しさと生命力は、わが国での革命と建設の全過程をとおしてすでに十分に立証されています。

朝鮮革命の指導思想であるチュチェ思想の具現とその輝かしい勝利

わが党は、朝鮮革命を遂行する全期間にわたってチュチェ思想を確固たる指導思想とし、それを革命と建設のすべての分野に具現することによって、輝かしい勝利をおさめることができました。

朝鮮人民はチュチェ思想を指導指針とし、革命と建設のすべての分野で主体性を確立することによって、新しい社会の建設をめざすたたかいで大きな勝利をおさめました。かつては貧しく立ち後れた植民地国家であったわが国が、こんにちでは政治における自主、経済における自立、国防における自衛の強力な社会主義国にかわりました。朝鮮人民が新しい社会の建設でおさめた輝かしい勝利は、チュチェ思想の正しさと生命力をはっきりと実証しています。

1）抗日革命闘争の勝利と新しい民主朝鮮建設

朝鮮における抗日革命闘争の勝利と新しい民主朝鮮の大いなる成果は、朝鮮人民の生活を根本的に変革させた一大歴史的出来事であった。

この偉大な歴史的出来事は金日成主席が打ち出したチュチェ思想とその指導的役割をぬきにしては考えられない。

（1）チュチェ思想の旗の下に勝利した抗日武装闘争

1930 年代初から金日成主席の指導の下に組織展開された朝鮮人民の抗日武装闘争は、国家の後方や外部の援助もなしにおこなわれた実に困難で試練にみちた闘争であったが、チュチェ思想の旗、自力更生の旗を掲げた主席

の賢明な指導があったからこそ、ついにその輝かしい勝利を達成することができた。

金日成主席はシリア雑誌「ジョイシュ・アル・シャーブ」社社長をはじめとした各人士を接見し、チュチェ思想の旗の下に抗日武装闘争を展開した主な活動について言及している。

ここでは金日成主席が言及した教示の中で抗日武装闘争路線を提示し、主体的な革命力量を強化し、自力更生の革命精神を高く掲げて広範な人民大衆との血縁的連携を強化するようにした教示の内容について示している。

主体的な路線、抗日武装闘争路線の提示

抗日武装闘争当時、われわれの前には幾多の難関と試練が横たわっていましたが、われわれは自己の実情に合った主体的な革命路線と闘争方針をうちだし、それに依拠してたたかうことにより、つきあたる難関と試練をのりこえて革命の前途を成功裏に切り開いていくことができました。

われわれは 1930 年代の初期、わが国の情勢を科学的に分析したうえで、朝鮮革命の主体的路線、抗日武装闘争路線を示しました。抗日武装闘争路線はわが国民族解放運動の合法則的要求を正しく反映した路線であり、朝鮮人民自身の力で組織的な武装闘争を展開して日本帝国主義の植民地支配をくつがえし、祖国の解放をなしとげるためのもっとも正しい革命路線でした。われわれはこの路線にしたがって朝鮮人民革命軍を創建し、抗日武装闘争を展開して日本帝国主義侵略者に大きな打撃を与え、歴史的勝利を達成することができました。

われわれの経験は、被抑圧人民が国の解放と民族の独立をかちとるためには、抑圧者と断固たたかわなければならないし、そのたたかいのもっとも積極的でもっとも決定的な形態は、武力闘争であることを示しています。

歴史は、いまだかつて帝国主義者が植民地の人民に独立を贈物にした例を知らないし、国を奪われた人民が自ら立ち上がってたたかわずに、他人か

ら独立を与えてもらった事実も知りません。それゆえ、被抑圧人民が奪われた祖国を取りもどし、民族の真の自由と独立をかちとるためには、帝国主義にたいするいっさいの幻想を徹底的にすてさることが必要です。被抑圧人民は、ただ帝国主義に反対する積極的な闘争によってのみ革命を前進させ、解放偉業をなしとげることができるのです。

帝国主義者は、その植民地支配を維持するためにはいかなる手段や方法をもえらばないし、死に近づくにつれて、ますます必死になってあがきます。帝国主義者は植民地人民の解放闘争を、あらゆる権力機構と暴力手段を動員して流血的に弾圧します。かつて、日本帝国主義者は朝鮮でまさにそのように行動しました。それゆえ、朝鮮の共産主義者は祖国の解放のために武器を手にとってたたかいに立ち上がらざるをえなかったし、長いあいだの困難な武力闘争をくりひろげて、われわれは勝利をかちとりました。暴力には暴力で立ち向かわなければならず、革命的暴力をもって反革命的武力を撃破しなければなりません。諸国人民の解放闘争の経験は、小規模の闘争から始めてしだいに大規模の闘争へと発展し、ついには勝利をおさめることができることを示しています。

主体的革命力量の強化

われわれは革命力量を強化するために、なによりもまず抗日遊撃隊を政治的、思想的に、軍事的に強化することに第一義的な関心を払いました。われわれは抗日遊撃隊隊伍の組織的・思想的純潔と意志の統一を保障し、すべての遊撃隊員を確固たるチュチェ意識と熱烈な愛国主義思想、あつい革命的同志愛と自発的規律の精神で武装させるために力をつくしました。われわれはまた、敵とのたえまない戦闘をつうじて敵の武器を奪いとり遊撃隊の軍事的装備を強化するとともに、遊撃隊伍をいっそう拡大し発展させました。

抗日遊撃隊を強化するとともに、われわれは革命の大衆的地盤をしっかりときずきあげ、国と民族を愛するすべての大衆を結集して革命闘争に立ち

上がらせるために努力しました。

武力闘争が遊撃戦の形式で進められる条件のもとで、抗日遊撃隊と広範な人民との結びつきを強化し、人民が遊撃隊をあらゆる面から支持声援するようにし、かれらを反日闘争へと積極的に立ち上がらせることはきわめて重要な問題でした。

… … …

1936 年 5 月 5 日の、わが国における最初の反日民族統一戦線体である祖国光復会の創立は、革命の大衆的地盤を強化する活動において画期的な出来事となりました。祖国光復会が創立された結果、反日民族統一戦線運動は抗日武装闘争と密接に結びつき、より組織的、系統的に、そして全国的範囲で急速に発展するようになり、すべての反帝勢力を国の解放をめざすたたかいに力強く立ち上がらせることができました。

抗日遊撃隊の強化と革命の大衆的地盤の強化、抗日武装闘争といろいろな大衆闘争との密接な結合、これらは、われわれが反日民族解放闘争で勝利をおさめることのできた重要な要因の一つでした。

自力更生の革命精神

われわれが抗日武装闘争をくりひろげたときには、どこからも援助をうけるところがありませんでした。いま、民族解放闘争をしている国は他の国から援助をうけていますが、当時の事情はいまとは違っていました。当時われわれは、武器をはじめすべてのものを自力で解決しなければなりませんでした。われわれは日本帝国主義軍隊の武器を奪い取って武装をととのえました。

われわれが抗日武装闘争の過程でつきあたるさまざまな難関と試練を成功裏に克服できたのはまた、自力更生の革命精神をもって人民大衆の力にしっかり依拠してたたかったからです。

抗日武装闘争当時、われわれが頼りとするのは、ただ自分の力、人民大衆の力だけでした。われわれは武器と弾薬、食糧と被服などたたかいに必要

なものをすべて自力で敵からろ獲したり、人民の援助をうけて解決しました。

人民大衆との血縁的なつながり

わたしが少数の同志とともに、何挺かの武器をもって日本帝国主義に抗する闘争をはじめたとき、われわれの力は微弱なものでした。抗日武装闘争の時期、日本帝国主義者はわれわれを指して「大海の一粟」だといいました。かれらはわれわれを見て、大海に浮かぶ粟のような力でどうやって大日本帝国と戦うというのかとあざ笑い、われわれにたいするさまざまな悪宣伝をしました。しかしわれわれは、かれらの威嚇や欺瞞宣伝に屈したり、だまされたりはしませんでした。われわれは人数が少なく、武器も取るに足りないものでしたが、人民と団結し、人民大衆の力に依拠して戦うならば必ず勝利するという確固たる信念をもち、長期間、苦難にみちた闘争を展開し、ついに日本帝国主義を打倒して祖国の解放をなしとげたのです。

事実、わが国で達成されたすべての成果は、朝鮮人民の偉大な力が生んだものです。

われわれはつねに人民の力を信じています。人民の意思を尊重し、人民の力に依拠すれば、なしとげられないことがありません。

われわれは人民大衆の力を信じ、それに依拠して日本帝国主義と戦って勝利し、またアメリカ帝国主義とも戦って勝利し、戦後、廃墟のなかから社会主義を建設しました。あなたがたは、日米両帝国主義を打ち破る戦争でどちらがきびしかったかと問いましたが、二つの戦争はいずれも困難な戦いでしたが、日本帝国主義との戦争のほうがきびしかったといえます。

…　…　…

狡猾な日本帝国主義は、わたしと人民を離間させるためにもさまざまな術策をつくしました。かれらはわたしが戦死したというデマを何度も流しました。いっときは他人の生首をさらして、わたしを討ち取ったという掲示を張りだしてデマを流し、人民を欺こうとしました。それで人民は、昼間は掲

示板に近寄れず、夜間に行って事実を確かめては、かえって日本人が偽りの宣伝をしているといううわさを広めたものです。わたしが死んだといううわさが3、4回も流れたのですから、それだけ長生きできるのではないかと思います。日本帝国主義はわたしと人民を離間させようとあらゆる術策をつくしましたが、わたしにたいする人民の支持を断ち切ることはできませんでした。

人民の力はじつに偉大であり、はかりしれないものです。これは、わたしがこれまでの革命闘争の過程で身にしみて体験した真理であります。わたしは日本帝国主義者やアメリカ帝国主義者とも戦い、社会主義革命と社会主義建設もおし進めてきましたが、その過程で人民大衆の力は偉大であるという真理を実証することができました。

（２）解放後、朝鮮が進むべき独創的な道

1945年8月15日、日本帝国主義の植民地統治から朝鮮は解放されたが、朝鮮人民の前には実に複雑で困難な民主建設の課題が提起された。

実情は困難であったが、人民は何からどうやればいいか、自分たちの進むべき真の道がどこにあるのかよく知らずにいた。

まさにこのとき、朝鮮人民の金日成主席は朝鮮が進むべき真の道を独創的に提示し、党と国家、軍隊を創建し、諸般の民主改革を成功裏に促すための活動を賢明に指導した。

これと関連した金日成主席の教示は、シリアとモザンビークの人士におこなった談話に言及されている。

新しい形の民主主義、朝鮮式民主主義の道

わたしは当時、わが国の歴史発展の特殊性と具体的現実からして、朝鮮の進むべき道はアメリカ式の「民主主義」でもなく、ソ連式の社会主義でもない新しい形の民主主義、朝鮮式の民主主義の道であることを明らかにしま

した。これは、朝鮮人民の志向と念願にかなったもっとも正しい新しい祖国建設の路線でした。

われわれは血潮をもって取りもどした祖国の大地に地主、資本家階級の政権であるブルジョア共和国を建てるわけにはいかず、だからといって歴史発展の段階をとびこえてただちに社会主義制度を樹立するわけにもいきませんでした。解放された朝鮮は反帝反封建民主主義革命の段階にありました。ですからわれわれは、一日も早く日本帝国主義の残りかすと封建的残りかすを一掃し、広範な人民大衆の利益を擁護する真の民主主義社会を建設する道に進むべきでした。そうすることによってのみ、富強な民主主義自主独立国家を建設し、人民に真の自由と権利と幸せをもたらすことができました。

われわれは人民に、朝鮮が進むべき道を明確に示し、かれらを民主主義自主独立国家建設をめざすたたかいへと力強くふるい立たせました。人民大衆の高揚した熱意と壮大な闘争の過程でわれわれは党を創立し、人民政権を樹立し、短い期間に土地改革と産業国有化をはじめ諸般の民主改革を成功裏に実施しました。その結果、朝鮮の北半部には真の人民民主主義制度が樹立され、社会主義革命へ移行する大路が開かれるようになりました。

党建設はもっとも第一義的な問題

日本帝国主義を打ち破って国を解放したあと、われわれが直面した重要な問題は党、政権、大衆組織、軍隊などをいかに建設するかということでした。ここでより重要なのは党、国家、軍隊を建設する問題であり、なかでも党を建設することが最優先的な解決を要する問題でした。日本帝国主義植民地の残りかすとその思想的毒素を一掃することも解放直後の重要な問題でした。

日本帝国主義者はわが国を 36 年間も支配し、朝鮮人民に朝鮮語や朝鮮文字の使用まで禁じました。日本帝国主義支配下の体制はいっさいが「天皇」のためのものであり、生活様式もすべて日本式のものでした。

日本帝国主義者は敗退まぎわに多くの朝鮮人を強制的にかりたて、民族にたいする裏切り行為をさせました。とくにインテリがそうした対象となりました。当時わが国のインテリのうち大学を出た人は数えるほどしかいませんでした。インテリの大部分は教員でしたが、少なからぬものが「神社参拝」に参加し、「天皇」のために服務しました。わが国の地主、資本家はほとんどが日本帝国主義者に仕えました。もちろん一部には国のためにつくした人もいました。解放直後、敵味方を正しく見分けるのはきわめて重要なことでした。もし人びとを悪く評価すれば敵を増やすことになり、悪質分子をよく評価すれば、かれらはわれわれの隊列にまぎれこんで害悪を及ぼすおそれがありました。

こうした状況にあって、われわれはまず抗日武装闘争に参加した革命闘士を中核とし、国内で地下闘争をした人びとを結集して共産党を組織しました。党建設では中核の問題がきわめて重要です。

われわれが共産党を創立する当時の情勢は複雑をきわめていました。

日本帝国主義の敗退後、方々にさまざまな党派があらわれました。共産党、新民党、民主党、青友党などの政党が出現し、多くの人が「英雄」をもって自任しました。各地の党派はそれぞれ党勢拡大に没頭しました。

…

われわれは情勢を科学的に分析したうえで、共産党を新民党と合同して大衆的政党である労働党に改組しました。

わが国はかつて立ち後れた植民地半封建社会であったため、解放直後、労働者階級の歴史はまだ浅く、鍛えられた共産主義者が少なかったうえに、人民は共産主義にたいする正しい認識をもっていませんでした。こうした実情にあって、共産党の綱領と規約どおりにすれば数千人しか入党させることができず、党は広範な勤労者大衆のなかに根をおろすことができませんでした。

われわれは 1945 年 10 月 10 日に共産党を創立しましたが、そのときの党員の数はいくらにもなりませんでした。共産主義青年同盟の盟員数も多く

ありませんでした。一方、民主党は多数の党員を擁していました。民主党は有産階級の利益を代表する党であり、指導者の大半はキリスト教信者で、アメリカ帝国主義者を崇拝していました。農民とインテリの利益を代表する新民党の党員数も数万にのぼりました。

そこでわれわれは北朝鮮共産党および朝鮮新民党の中央委員会拡大連席会議を開き、共産党と新民党を合同して労働党に改組することにしました。1946 年 8 月に北朝鮮労働党創立大会を開き、共産党と新民党の合同によって勤労者大衆の統一的な政党である労働党の創立を宣言し、新しい綱領と規約を採択しました。党の綱領では親日派、民族反逆者、地主、買弁資本家の打倒、外国帝国主義への従属からの祖国の完全な解放、民主主義自主独立国家の建設を当面の目標としてかかげました。そして党規約には労働者、農民、勤労インテリの先進分子で党の綱領と規約を承認するものは誰でも入党することができると規定しました。このように綱領と規約の要求を多少低くした結果、党勢は非常に早く伸びました。労働党は短期間に 45 万の党員を擁するきわめて大きな政党に成長し、広範な大衆のなかに深く根をおろすことができるようになりました。こうしてわが党は民主党を圧倒しました。

自国を守る正規的武力建設―朝鮮人民軍

自主独立国家は必ず自己の軍隊をもっていなければなりません。われわれは抗日武装闘争に参加した闘士を根幹となし、労働者、農民など勤労人民の息子や娘によって、1948 年 2 月 8 日に正規軍を創建しました。

諸般の民主改革の成果的な実施

われわれは日本帝国主義者を打倒したのち、ただちに北半部で民主主義革命を遂行しました。民主主義革命段階の基本的課題は、封建的残滓と日本帝国主義の植民地的残滓を一掃し、国の民主主義的発展を保障することでした。それでわれわれは土地改革を実施し、植民地支配者と買弁資本家の所有

であったすべての産業施設を没収して国有化しました。われわれは経済改革とともに、社会生活のすべての分野にわたって日本帝国主義の植民地支配の残りかすを一掃し、すべての勤労者に民主主義的自由と権利を全面的に保障するための民主改革も実施しました。民主主義革命が成功裏に遂行された結果、封建的残滓と日本帝国主義の植民地的残滓が一掃され、人民大衆の革命的熱意がいっそう高まり、広範な人民大衆が政権の主人として国家管理に広く参加できるようになりました。

自主独立国家の建設のためわれわれは、力のある人は力を、技術のある人は技術を、金のある人は金を出すようにさせました。こうして労働者、農民はいうまでもなく、旧社会のインテリや中小企業家まで自主独立国家の建設に総動員されるようになりました。

2) 祖国解放戦争の勝利と戦後の復興建設

金日成主席は世界各国の人士に会った機会に、朝鮮人民にとってもっとも厳しかった偉大な祖国解放戦争と戦後の復興建設の日々をしばしば回顧した。

この厳しい日々、金日成主席が頼りにしたのは、ただ偉大なチュチェ思想の正当性と威力、限りない朝鮮人民自体の力であった。

（1）全人民の団結した力とチュチェ戦法で勝利した祖国解放戦争

世界最強を誇るアメリカと朝鮮との戦争、原爆をもって襲いかかる暴虐な侵略軍隊と小銃しかない朝鮮人民軍との対決、これは武力装備の水準と規模において対比すらできない戦いであった。しかし朝鮮人民は最強を誇って

いたアメリカ帝国主義の傲慢な鼻柱をへし折って快勝を勝ち取った。その偉大な戦勝の秘訣はどこにあったのか、

その秘訣について金日成主席はアイルランド労働党総書記、ペルーアメリカ人民革命同盟代表団をはじめとした各国の人士に会った席上で言及している。

小さな国であってもかたく団結してたたかえば勝利

あなたは、朝鮮人民がアメリカ帝国主義侵略者と戦って偉大な勝利をおさめたことは、いかに小さな国であっても人民がかたく団結してたたかうならば、いかなる帝国主義侵略者をもゆうに打ち破ることができるということを世界の人民に示していると話しましたが、正しいお言葉だと思います。

わが党は「すべてを戦争の勝利のために!」という戦闘的スローガンを示して国家のいっさいの活動を戦時体制に切りかえ、全党、全国、全軍、全人民をアメリカ帝国主義侵略者に抗する正義の聖戦へとふるい立たせました。党の戦闘的スローガンを高くかかげて、人民軍将兵と全人民は、国の独立と民族の栄誉を守り、祖国の統一をなしとげるための正義の祖国解放戦争にこぞって立ち上がり、勇敢にたたかいました。

いうまでもなく当時、人民軍は敵に比べて数のうえではいちじるしく劣っていました。人民軍はわずか数万人にすぎなかったのに、アメリカ帝国主義者は数十万のアメリカ軍と 15 の追随国軍隊を朝鮮戦線に動員したのです。しかし、われわれはアメリカ帝国主義とその手先の武力侵攻を恐れませんでした。当時の朝鮮人民の力は、われわれが抗日武装闘争を展開した時期に比べると、はるかに強大なものでした。われわれには小さい力量で日本帝国主義者を打ち倒した経験があり、抗日革命の輝かしい伝統を受け継いだ正規の革命武力がありました。われわれにはまた、わが党と共和国を限りなく信頼し、われわれの制度を熱烈に愛するりっぱな人民がありました。

われわれが強大なアメリカ帝国主義と戦って勝利することができたの

は、団結した人民の大きな力があったからです。朝鮮人民は、われわれの制度は人民のためのもっともりっぱな制度であり、人民委員会は真の人民の政権だ、農民に土地をくれ、全人民を豊かに暮らせるようにしてくれたありがたい制度と人民政権を守るために、労働党の呼びかけにこたえ金日成将軍のお言葉どおり戦争で必ず勝たねばならないといって、一丸となって立ち上がり英雄的に戦いました。

他人の方式ではないチュチェ戦法

われわれは祖国解放戦争の時期に、教条主義と事大主義に反対し、チュチェ思想の旗を高くかかげなければならないことをいっそう痛感しました。

解放後、われわれは新しい朝鮮を建設するために少なからぬ人を外国に留学させるとともに、外国で活動していた多くの朝鮮人を帰国させましたが、かれらのなかから事大主義と教条主義があらわれました。

留学帰りの人も、外国から帰国した人もみな、われわれのものより外国のもののほうがよいといって、他国のものを機械的に取り入れようとしました。かれらは戦時中、敵との戦いにおいても国内の実情を考慮せず、外国の方式で戦おうといいました。われわれはこうした傾向に反対しました。第2次世界大戦のとき、ヨーロッパの広大な平野に数百台の戦車を一挙に繰り出して敵を攻撃した。そのような戦法はわが国の地形条件に合いません。わが国には戦車が多くなかったばかりか、戦車があったとしても、わが国の地形条件では多くの戦車で一挙に敵を攻撃することはできません。わが国は平野が少なく、山が多い国です。

わたしは当時、朝鮮人民軍最高司令官として、われわれは他国の戦法で戦うべきではなく、朝鮮の地形条件にかなった朝鮮式の戦法で戦うべきであることを強調しました。われわれは抗日武装闘争の時期にあみだした遊撃戦の戦法を正規戦の要求にふさわしく発展させ、わが国の実情にかなった各種の新たな戦法をあみだしました。

祖国解放戦争の時期、アメリカは共和国が小さい国だから多くの軍隊を不意に投入すれば、共和国北半部を一挙に占領できると考え、共和国北半部にたいする大々的な攻撃を開始しました。戦争の初期、わが人民軍部隊は、わが国の地形条件に適応した戦法をあみだせなかったため、かなりの困難をなめました。おびただしいアメリカ軍の不意の攻撃にあって、わが人民軍は一時後退を余儀なくされました。

われわれは戦争初期の経験と教訓をただちに総括し、わが国の条件にかなった新しい戦法をあみだしました。人民軍軍人は、山の多いわが国の地形条件を利用して山中に隠れては、追い討ちをかけてくる敵を谷間に追い込んで撃破しました。こうして、誇大妄想のとりこになってわが国を一挙に呑みこもうとしたアメリカは多くの兵力を失ってしまいました。

われわれは抗日武装闘争をはじめるとき、最初は数百名をもって遊撃隊を組織し、闘争の過程でしだいにその武装力を数千、数万に増やしていきました。敵との戦いにおいても、われわれは一挙に多くの敵を掃滅しようとせず、少しずつ掃滅する戦法を用いました。こうしてわれわれは多くの敵を掃滅し、ついには最終の勝利を達成しました。

われわれは祖国解放戦争の時期、アメリカと戦うときにもそういう方法で戦いました。当時、アメリカはわれわれより軍事技術的の面で優勢でした。敵が優勢な状況のもとで、われわれは一挙に数個師団の敵を掃滅しようとせず、一個小隊、一個中隊ずつ掃滅することにしました。アメリカは時間がたつにつれてしだいに損失が大きくなると、戦争が長引けばそれだけかれらにますます不利であることを感じ、停戦を提起してきました。アメリカは朝鮮を一挙に呑みこもうと襲いかかってきて散々な目にあい、アメリカの戦争史上はじめて朝鮮戦争で敗北を喫したと告白しました。

（2）朝鮮人民の気概を示した戦後復興建設

戦争のときにおこなったアメリカ帝国主義の野蛮な無差別爆撃と砲撃によって、戦後の朝鮮のすべての産業施設はひどく破壊され、都市と農村は廃墟と化した。それに資材や資金の事情はたいへん困難であった。

一方、アメリカ帝国主義は、朝鮮は 100 年かかっても立ち直れないだろうと公言した。事実上、当時朝鮮の状況は何からはじめ、どのように復興させるべきかを見極められないほど極めて困難であった。

しかし朝鮮人民は失望したり、尻込みばかりしたりしていなかった。

たとえ、すべてが破壊され、廃墟と化していたが、朝鮮人民は領袖がおり、領土があり、党があり、人民政権があるかぎり、必ず破壊された経済を復旧し、人民が豊かに暮らす新社会を建設できるという確信をもって戦後の復興建設にとりかかった。

金日成主席は外国の人士たちに当時、全人民が自己の力を信じ、戦後復興建設のための闘争にこぞってたちあがって、戦後復興建設を 3 年という短期間に成果的に結束することにより、100 年かかっても立ち直れないだろうと公言したアメリカ帝国主義に朝鮮人民の気概を示したと教えた。

基本はわれわれ自体の力

われわれは日本帝国主義やアメリカ帝国主義と戦うときはもちろん、社会主義を建設するときにも、他国からそれほど助けを受けていません。もちろん、祖国解放戦争の時期や戦後復興建設の時期に社会主義諸国から多少援助を受けましたが、そのときにも外国の援助が基本であったわけではなく、われわれの自力更生が基本でした。外国の援助は二の次でした。

わが国は先の祖国解放戦争の時期、アメリカ帝国主義者の爆撃によって都市と農村とをとわずすべてが廃墟と化しました。当時、われわれに残ったものは素手だけでした。われわれはゼロから自力で国を復興建設しなければ

なりませんでした。もちろん外国の援助を多少うけましたが、それは取るにたらないものでした。わが国の復興建設において基本となったのは自分自身の力でした。

われわれは戦後、鉄道を電化するため自力で電気機関車をつくろうとしました。当時、わが国に駐在していたヨーロッパのある国の大使は、小さな貴国で電気機関車の製作などは不可能なことだ、朝鮮で電気機関車の製作に成功すれば、逆立ちをしてみせるといいました。

しかし、わが国の若い技術者と古くからの技術者は自力で設計し、電気機関車をつくりあげました。いまわが国にある電気機関車はすべて国産です。

祖国解放戦争の時期、アメリカ帝国主義者はわが国の都市と農村を爆撃して焼け野原にしました。戦後わが国には家らしきものは一軒も残りませんでした。平壌市を見ても、残ったのは半壊した 2,3 棟の建物だけでした。

戦争が終わると、朝鮮人民はわたしを見つめました。わたしは人民に、われわれは決して死んではいない、われわれには戦争で鍛えられた人民があり、領土と人民政権があり、党があり、領袖がいる。われわれが自分の力を信じ、かたく団結して奮闘するなら、復興建設は十分早く進めることができる、と話しました。

アメリカ帝国主義者は、100 年かかっても朝鮮は立ち直れないだろうとうそぶきましたが、それは誤算でした。朝鮮人民は自力で立ち上がり、20 年もたたないうちに、すべてを戦前より何倍もりっぱに建設しました。われわれは、全国の都市と農村を美しく整備し、平壌に多くの近代的な記念碑的建造物を建てました。かつて 37 万の人口であった平壌が、いまでは近代的な大都市に変わっています。

…人民大衆の力はじつに偉大なものです。人民を信頼し、かれらを結束して立ち上がらせるなら、不可能なことはありません。人民は建物も建て、技術も発展させ、なんでもやり遂げます。人民の創造力を高め、かれらを正しく動員すれば、十分新社会を建設することができます。人民を信頼し、か

れらの力に依拠して政治をする人を征服できると考えるならば、それは思い違いです。われわれは人民を信頼し、かれらの力に依拠しているので、アメリカ帝国主義との戦いで勝利したように、これからも勝利するでしょう。

人民大衆の力を発揮

戦後、復興建設に取り組まなければなりませんでしたが、人びとは溜息をつくばかりで、なにからどうしたらよいのか皆目見当がつかないありさまでした。そうしたときわたしは、われわれに領土があり、人民と人民政権があり、党の正しい指導がある以上、われわれは廃墟のなかからも十分立ち直ることができる、世界「最強」を誇っていたアメリカ帝国主義と戦って勝利したわれわれに復興建設ができないわけはない、復興建設にこぞって立ち上がろうとアピールしました。全人民を復興建設に力強く呼び起こすことにより、われわれは短期間に破壊された都市と農村、工場を新しく建設し、戦後の復興建設で大きな勝利を達成することができました。

戦後の復興建設期はきわめて困難な時期でした。われわれはアメリカ帝国主義との戦いで勝利しましたが、戦後の国の状況は困難をきわめていました。3 年間の戦争で国のすべてのものがことごとく破壊されました。

戦争前、平壌市の人口は 37 万でしたが、アメリカ帝国主義者は戦争中、平壌市に 0.5 トン爆弾と 1 トン爆弾をはじめ 40 万個以上の爆弾を投下しました。これは、平壌市民一人当たり一個以上の爆弾が投下されたことになります。戦後、平壌には家らしきものが一軒も残りませんでした。ただ半壊状態の 3 軒の解放前のコンクリート建築が残っただけで、その一つは府庁でもう一つは銀行、それに和信百貨店でした。戦争のとき、平壌市ばかりでなく、国中のすべての都市と村落が廃墟と化しました。わが国をこのように無残に破壊したアメリカ帝国主義者は戦争が終わったとき、朝鮮はこれから 100 年かかっても立ち直れないだろうとうそぶきました。

戦後、朝鮮人民は復興建設をどのように進めるべきか見当がつかず、た

め息まじりにわたしを見つめていました。それでわたしは人民に、国のすべてのものが破壊されはしたが、国土があり、人民があり、党と政権がある以上、ゆうに立ち直れると力づけました。人民は確信をいだいて再び立ち上がり、100 年どころか、20 年足らずの短い期間に平壌市をはじめ全国を戦争前よりりっぱに建設しました。われわれは実際の闘争を通じて、人民がかたく団結して創造力と献身性を発揮するならば、できないことがないということを実証しました。

朝鮮人民が戦後の3カ年計画を成功裏に遂行して第1次５か年計画の遂行に着手したときはきわめて困難な時期でした。

われわれは第１次５か年計画で、わが国における社会主義基礎建設を完成するという高い目標をかかげましたが、当時われわれには資金も不足し、労働力と設備、資材も不足していました。そのうえ、内外の情勢は複雑かつ緊張をきわめていました。アメリカをかしらとする帝国主義者は世界のいたるところで侵略と戦争策動を強化し、反共キャンペーンを悪らつにくりひろげました。一方、国際共産主義運動内には左右の日和見主義があらわれ、朝鮮人民の革命闘争と建設事業に難関をつくりだしました。朝鮮の南半部では、アメリカ帝国主義者とその手先が戦争準備に拍車をかけ、共和国北半部にたいする侵攻を公言して大々的な「北進」騒ぎを起こしました。これと時を同じくして、党内に潜伏していた反党・反革命分派分子はきびしい情勢が生じたすきに乗じて頭をもたげて党に挑戦し、公然と自立的民族経済建設の路線に反対しました。

こうして朝鮮人民には、自立的民族経済建設路線を貫徹できるかどうかという深刻な問題が提起されました。

われわれは革命闘争の困難な時期が到来するたびに、人民大衆を信頼し、かれらに依拠して障害と難関をのりこえてきたように、このときにも自力更生の革命精神を発揮し、人民大衆の力に依拠して当面の難局を打開していくことにしました。

われわれは労働者階級をはじめ勤労者のなかにはいり、かれらに国家の窮状を知らせ、革命の要求と党の意図を解説し、直面している障害と難関を克服して生産を成長させる方途を相談しました。そして、あらゆる潜在力と可能性を動員して、社会主義建設で新たな一大高揚を起こすよう呼びかけました。

わが国の労働者階級と勤労者はわが党を断固擁護しその呼びかけに積極的に呼応し、自力更生の革命精神を高く発揮して古い公称能力と基準量を打ち破って新しい基準量をつくりだし、生産において驚くべき飛躍と革新を起こしました。人民大衆の高まった気勢と献身的なたたかいによって、われわれの前途に横たわっていたさまざまな難関は克服され、社会主義建設で革命的大高揚が起こり、これは世界に広く知られた朝鮮におけるチョンリマ（千里馬）運動の端緒

となりました。われわれは結局、当面の難局を打開するたたかいをつうじて禍を福にかえました。

自体で養成した民族幹部に依拠

戦後、朝鮮人民が自力更生するうえで大きな効を奏したのは、戦時中に養成した民族幹部です。われわれはきびしい祖国解放戦争の時期に、兄弟諸国に留学生を送って技術者を育てる一方、山中にテントを張って大学を運営し、戦争ですべてがはなはだしく破壊されましたが、自己の民族幹部がいたので、戦後の復興建設は解放直後の経済復興期にくらべて少々らくにできました。

3）社会主義革命と社会主義建設

戦後､廃墟から再建してまもない朝鮮で世人を驚嘆させるもう一つの大きな歴史的変革が起こった。

それは社会主義革命と社会主義建設であった。

朝鮮人民はチョンリマの気概で前進して社会主義革命を成功裏に遂行し､たった 14 年という短い期間に社会主義工業化の歴史的偉業を実現した。

これは歴史にいまだかつてなかった偉大な変革であった。

金日成主席はかつてと同様にチュチェ思想の大きな生命力を最大限に発揮するようにして朝鮮を一大変革させたし、世界を震撼させた。

（1）主体性を確立して遂行された社会主義革命

金日成主席は社会主義革命を遂行する当時、主体性の確立問題を朝鮮革命の運命とかかわるきわめて重大な問題とし､なによりもまず事大主義と教条主義を粉砕し、主体性を確立するための一大思想戦を展開した。

続いて､集団的革新運動であるチュンリマ運動を展開するようにし､農業協同化と個人商工業の社会主義的改造を朝鮮式に完成するようにした。

これに関連して金日成主席は外国の人士らにおこなった教示の内容は次のようである。

思想活動における主体性の確立

わが国で事大主義に反対し主体性を確立する必要性は､戦後になっていっそう切実に提起されました。それでわたしは 1955 年、党の宣伝扇動活動家に、思想活動における主体性の確立問題について演説しました。そのときわたしは宣伝扇動活動家に､われわれはもちろん偏狭な民族主義者になって

はならないが、だからといって自国と自民族を忘れてはならず、一幅の絵を描いても朝鮮人民のために描き、一曲の歌をうたっても朝鮮人民に愛唱される歌をうたうべきだといいました。そのときからわれわれは主体性確立の問題を強くうちだしました。

戦後、われわれは革命と建設の各分野で主体性を確立し、すべての仕事をわれわれの方式でおこないました。個人農経営の協同化も外国の方式ではなく、わが国の実情に即してわれわれの方式でおこないました。その結果、わが国における農業協同化運動は短期間に順調におこなわれました。

わたしは農業協同化を進めるさい幹部に、外国のよい経験は学ぶべきであるが、それがわが国の実情と朝鮮革命の利益に合致するかどうかを味わってみて「胃」が受け入れれば飲みくだし、そうでなければ吐きすてるべきだといいました。その後もわれわれは幹部に、外国のもののうち朝鮮人民が求めるものは受け入れ、そうでないものは受け入れてはならず、受け入れる場合にも機械的に模倣すべきではなく、わが国の具体的な実情に合うよう受け入れなければならないと強調しました。われわれはつねに幹部と勤労者をこのようにチュチェ思想で教育しました。

これまで、われわれが主体性を確立し、すべての活動をわれわれの方式でおこなった結果、わが国では万事がうまくいきました。

われわれはこんにちも、チュチェ思想にもとづいてすべての問題をわれわれの方式で解決しています。工業も主体的に発展させており、建設も主体的に進めています。農業もわが国の実情に即して主体的に発展させています。

わが国の農業専門家のなかには留学帰りの人が少なくありませんが、われわれはかれらが学んできた農法をわが国の現実にそのまま適用しないようにしました。なぜならば、外国の農村とわが国の農村とでは実情が異なるからです。かれらが外国で学んできた農法は、わが国の実情に合いません。実情に合わない農法をそのまま適用しては農業を正しく営むことができません。

ひところ、わが国の農業大学では外国の農業大学の教科書を翻訳し、それで学生を教えていました。しかし、いまでは主体的農法の要求に即して教科書を新しく編さんし、それで学生を教えています。

わが国の芸術家の公演を見れば分かることですが、われわれは歌もわれわれの方式でうたっており、歌劇もわれわれの方式で発展させています。

もちろん、世界にはチャイコフスキーの作品をはじめ、すぐれた音楽作品が少なくありません。しかし、いかにすぐれた音楽であっても、外国のものは朝鮮人民の情緒にはよく合いません。朝鮮人民は民族的形式に社会主義的内容をもりこんだ芸術を好みます。われわれは、わが国のものを無視し、外国のものを機械的に取り入れようとする傾向と、昔の古いものをそのまま復活させようとする傾向にともに反対しています。われわれは民族的形式に社会主義的内容をもりこんだ文学・芸術を発展させる原則を堅持しています。

一言でいって、いまわが国では主体的な工業、主体的な農業、主体的な建設、主体的な文学・芸術が急速に発展しています。

チュチェ思想を指針とすれば万事がうまくいきます。

…　…

事実、われわれはマルクス主義をわが国の現実にそのまま適用したのではありません。マルクス主義を機械的に適用しては革命闘争で勝利をおさめることができません。

マルクスはドイツやイギリスのような発達した資本主義国で活動する過程で、資本主義社会にたいする分析にもとづいて革命理論をうちだしました。マルクスはヨーロッパの主な資本主義諸国で革命が連続的に起きるものとみなし、世界的範囲で共産主義が遠からず勝利するものと予言しました。しかし、マルクスとエンゲルスによって「共産党宣言」が発表されてから１００年以上の歳月が流れましたが、共産主義が実現した国はまだ一つもありません。イギリスにはいまだに資本主義がそのまま残っています。

資本家は非常に狡猾です。資本家はその地位を維持するためにあらゆる

術策を弄します。資本家は労働者階級のあいだに労働貴族を育て、かれらをかつぎだして労働運動の隊伍を切り崩そうと策動しています。いま、発達した資本主義諸国で革命が起こらない主な原因の一つはここにあります。

労働者階級の隊伍が増大しさえすれば革命がおのずと起きるものと見てもならず、また労働者階級だけで革命が遂行できると見てもなりません。かつて正常な資本主義的発展段階をへることができず、植民地または半植民地であった国ぐにでは、農民と手工業者まですべて結集してこそ、革命で勝利することができます。

… …

マルクスの著作には、個々の国での革命の遂行方途までは具体的に記述されていません。個々の国の共産主義者は、自分の頭を働かして自国人民の利益と自国の実情に合った革命の遂行方途を見いださなければなりません。個々の国の実情はその国の党がよく知っています。ペルー革命についてはあなたがたがだれよりもよく知っており、朝鮮革命についてはわれわれがだれよりもよく知っています。個々の国の革命と建設で提起される理論的・実践的問題にたいしては、その国の党がもっとも的確な結論を下すことができます。

革命の遂行において固定不変の公式といったものはありえません。数学には公式がありますが、革命の遂行には公式がありません。革命の遂行で必ず守るべき公式があるとすれば、それはすべての問題を自分の頭で考え、自力で処理しなければならないということです。これ以外に他の公式はありえません。われわれは長期にわたる革命闘争の過程で、こうした結論を得るようになりました。

集団的革新運動であるチョンリマ運動の端緒

われわれは 1956 年 12 月に党中央委員会総会を開き、社会主義建設で革命的大高揚を起こすという決定を採択しました。総会決定を貫徹する闘争の過程でチョンリマ（千里馬）運動が起こりました。そのときから、わが国で

は社会主義建設が速いテンポで進捗しました。

チョンリマ運動ののろしをまっ先にあげたのは降仙製鋼所の労働者たちでした。われわれはチョンリマ運動を記念するため、平壌にチョンリマの銅像を立てました。

すぐる20年間、朝鮮人民はきわめて速いテンポで前進してきました。いまになって思いかえしてみると、わたしとしても当時、人民があれほど速いテンポで前進するとは想像もしませんでした。

わが国では、革命闘争と建設事業のどの一部分も、大衆的運動として、全人民的運動として進められなかったものはありません。われわれは人民の高度の革命的熱意と創造的積極性に依拠することによって、革命と建設の困難で膨大なすべての課題を成功裏になしとげることができました。大衆に依拠して広範な大衆をふるいたたせる革命的な方法ですべての問題を解決した、まさにこの点にわれわれの社会主義建設が急速に進捗する重要な秘訣の一つがあるのです。

われわれは、社会主義建設で重大な難関や試練にぶつかったとき、人民大衆を信頼して大衆のなかに入り、大衆とひざをまじえて困難を打開し、革新を起こす方途について真剣に話しあいました。この過程で勤労者大衆は党の意図をつかみ、党の路線と政策を貫くための集団的な革新運動を起こしました。これがわが国においてその名をはせるチョンリマ（千里馬）運動に発展しました。

チョンリマ運動は、社会主義建設を最大限に促進するための朝鮮人民の大衆的革新運動であります。チョンリマ運動は社会主義建設でわが党の大衆路線をもっともりっぱに具現しており、まさにこの運動をとおして、朝鮮人民のあらゆる英知と熱意と創造力が全面的に発揮されています。チョンリマ運動が広範にくりひろげられた結果、われわれの経済と文化、思想と道徳のすべての分野に革新が起こり、わが国の社会主義建設では輝かしい成果が達成されました。

われわれのすべての勝利は、わが党のチュチェ思想の偉大な勝利であると同時に、革命的大衆路線の輝かしい勝利であります。

われわれの経験は、思想において主体性を確立し、それを革命と建設のすべての分野に徹底的に具現するとともに、人民大衆の創造的熱意と才能を正しく組織し動員するならば、過去にどんなに立ち後れていた国でも、短時日のうちに富強な新しい社会を建設することができるし、いかなる帝国主義侵略者をも十分打ち破って祖国の独立と人民の尊厳を守りぬき、国と民族の繁栄をもたらすことができるということを示しています。

朝鮮式の社会主義的農業協同化の実現

共和国北半部における社会主義革命には、独創的な解決を要する新しい問題が数多く提起されました。われわれは前人未到の新しい道を歩み、誰もうちだしたことのない新しい路線を創造しなければなりません。

農業協同化の問題を一つとってみてもそういえます。他の国では農業を機械化できる程度に工業化を実現してから、個人農経営を社会主義的に改造しました。しかし戦後、貧農とともに富農までも国家の救済対象となったわが国の状況下では、そうすることができませんでした。われわれは工業化の実現をまたずに個人農経営を社会主義的に改造することによって、農業生産力発展の道を切り開かなければなりませんでした。

われわれは農業がはなはだしく破壊された状況下でも、一人で働くより力を合わせて働くほうが幾倍も能率的だと認め、技術改造に先立って経営形態を社会主義的に改造する方針を示しました。

われわれが農業を協同化するということを聞いて、ある国の人たちはあざ笑いました。当時、東ヨーロッパの社会主義諸国では、個人農経営の社会主義的改造に本格的に取り組んでいませんでした。われわれは他人はどうしようと、党のうちだした方針にしたがって農業協同化運動を力強くおし進めました。

… … …

われわれがきわめて短い期間になんの偏向もなく、古い生産関係の社会主義的改造を成功裏に完成することができたのは、わが党の政策が正しかったからです。

われわれは農業協同化運動において強制的な方法を断固排撃し、自発性の原則を厳守するとともに、さまざまな正しい政策を実施しました。貧農で組織された協同組合の経済的土台を強化するため、国家では協同農民に長期貸付を与えて農機具や役牛などを購入できるようにし、現物税の納入率も協同組合の場合は個人農より低くしました。また国家では、肥料も協同組合には個人農より廉価でより多く提供し、水利化をおこなって用水も協同組合に優先的に送りました。

国家のこのような措置によって、協同農民の生活水準は短期間のうちに向上しました。協同経営の優位性が目に見えてあらわれるようになると、個人農は農業を独自に営むよりは力を合わせて営むほうがまさっていることを知り、自発的に協同組合に加入するようになりました。

国家では都市の私営商工業者で生産協同組合または販売協同組合を組織し、それを運営できるよう貸付をしました。

われわれは、当時わが党と共和国政府の実施した諸政策がきわめて正しいものであったと考えます。

戦後われわれが農業協同化運動をはじめたとき、ある者はわが国の状況のもとでは農業協同化はできないといいました。しかし、すべてが廃墟と化した状況のもとで、力を合わせなければ生きていくことができませんでした。それでわれわれは、農村で協同組合を組織しました。農民が一体となったので、大きな力が生まれ、協同経営の優位性があらわれました。

個人商工業の社会主義的改造

アメリカ帝国主義の野蛮な爆撃によって、都市の手工業者と資本主義的商工業者も経済的基盤を完全に失い、戦争後に残されたものは素手しかありませんでした。わが国で資本家を一掃したのは共産主義者でなく、アメリカ帝国主義者でした。資本主義的商工業者が完全に破産し没落した状況のもとで、国家がかれらに融資して復活させてから、かれらとたたかう必要はありませんでした。わが党は、私営商工業者が裸一貫の状態に追いやられた戦後の時期を私営商工業の社会主義的改造に最適の時期とみなし、手工業と資本主義的商工業の社会主義的改造を強くおし進めました。

われわれはまず、手工業者同士で力を合わせるようにしました。国家は資金を提供し、手工業者が設備を購入して共同経営を営めるようにしました。手工業者からなる生産協同組合に中小企業家をもじょじょに加入させました。また個人商の場合は、販売協同組合または生産販売協同組合を組織させ、それをしだいに生産協同組合に改組させました。

（２）社会主義建設過程におけるチュチェ思想の全面的具現

チュチェ思想を具現するための闘争を力強く展開してきた朝鮮人民は全面的社会主義建設という新たな歴史的転換期を迎えるように委員長なった。

こうした歴史的転換の時期に朝鮮人民は歴史がいまだかつて知らなかったまったく新しい方式である思想、技術、文化の３大革命という独特な方式で全面的社会主義建設を促進した。

全国に３大革命が力強くくり広げられ、政治、経済、思想文化を包括する社会のすべての分野がチュチェ思想の要求どおりに一新されて行った。

他国では見られない領袖、党、大衆の一心団結を成したうえで、いかなる世界的な経済荒波にも微動だにしない自立的民族経済が建設され、社会主義の民族文化と教育が全面的に開花、発展した。

チュチェ思想の全面的具現とその過程に得られたこうした貴重な経験と輝かしい成果について金日成主席は世界の各国人士に会った席で数回も言及した。

社会主義工業国への転換

かつてわが国は植民地・半封建社会でありました。朝鮮人民は、旧社会から立ち後れた経済と文化を引きつぎ、それさえもアメリカ帝国主義者が引き起こした3年間の戦争によってことごとく破壊されました。われわれはまた、国が南北に分断され、アメリカ帝国主義侵略者と直接対峙している状況のもとで新しい社会の建設にとりくみました。

朝鮮人民は、前進途上に多くの難関と試練をへましたが、つねに自己の偉業の正しさを深く確信し、不屈のたたかいをくりひろげ、短期間のうちに幾世紀にもわたる立ち後れと貧困をなくし、りっぱな社会主義の新しい社会を建設しました。搾取と抑圧が支配していたわが国に、いまは、みんなが互いに助け働きながら幸せに暮らす先進的な社会主義制度がうちたてられ、わが国は近代的な工業と発展した農業をもつ社会主義的工業国に変わりました。

朝鮮労働党の正しい指導のもとに、朝鮮人民は高度の創造的熱意と愛国的献身性を発揮し、3年余りのあいだに戦後の人民経済復興事業を成功裏に終え、ひきつづき頑強な闘争をくりひろげて、14 年というきわめて短い期間に社会主義的工業化の歴史的課題をりっぱになしとげました。こうして立ち後れた植民地農業国であったわが国は、こんにち、人民の生活と国の経済管理を自力でおこなえる強力な重工業と近代的な軽工業、発達した農業をもつ社会主義工業国になりました。

わが国でおさめたこの偉大な勝利は、全人民が自力更生の革命精神を高度に発揮し、党のうちだした自立的民族経済建設路線を貫徹するため献身的にたたかった結果なしとげられたものです。

現代技術文明から遠くとりのこされていたわが国で、そなえるべきもの

をすべて自力でそなえ、独り立ちできる経済を建設するのは、けっして容易なことではありませんでした。そのうえ国が南北に分断され、アメリカ帝国主義者とその手先の戦争挑発策動が間断なくつづく状況のもとで、朝鮮人民のまえには数多くの障害と難関が横たわっていました。しかし朝鮮人民は、自己の運命の主人は自分自身であり、自己の運命はただ自分で切り開かねばならないという革命的決意をもって、新生活創造の困難で険しい道を勇敢に切り開き、民族経済の自立的土台を成功裏にきずきあげました。

わが国における社会主義制度の確立、これは長いあいだの革命闘争をつうじて朝鮮人民がかちとったもっとも偉大な勝利であり、朝鮮人民のすべての幸せと、より明るい未来にたいする確固たる裏付けであります。

新しい生活を創造するたたかいで朝鮮人民がおさめた重要な成果の一つは、経済的立ち後れをなくし、自立的民族経済を建設したことです。

朝鮮人民が旧社会から受けついだ経済は、きわめて立ち後れた従属的な経済であり、それさえも3年間の戦争によってはなはだしく破壊されました。

朝鮮労働党の正しい指導のもとに、朝鮮人民は自力更生の革命精神を高く発揮して幾多の障害と難関を勇敢にのりこえ、経済建設を力強くおし進めて、14 年というきわめて短い期間に社会主義的工業化の歴史的課題をりっぱに実現しました。こうして、かつては立ち後れ貧しい植民地農業国であったわが国が、こんにちでは人民生活と国の経済を自力でまかなえる強力な重工業と近代的な軽工業、発達した農業をもつ社会主義工業国に発展しました。

社会主義建設の基本方向―思想、技術、文化の3大革命

わが国において社会主義を成功裏に建設するための重要な課題は、第5回党大会で示した3大革命の課題を遂行することです。われわれが遂行する3大革命は思想革命、技術革命、文化革命です。

技術革命は骨のおれる労働をらくな労働に変え、すべての勤労者を骨のおれる労働から解放するたたかいです。

文化革命のもっとも重要な課題は、すべての人をインテリ化することです。われわれは民族幹部養成事業に大きな力をそそぎ、すでに 100 万のインテリ大集団を養成する大きな成果をおさめました。今後、社会主義建設で高い目標を達成し、自立的民族経済をいっそう強固なものにするためには、すべての勤労者が豊富な科学技術知識を身につけなければなりません。したがってわれわれは、全人民が高等中学校卒業程度の文化・技術水準に達し、さらには大学卒業程度の水準に達するようにするためたたかっています。

思想革命は、すべての人を労働者階級化、革命化するたたかいです。

思想、技術、文化の 3 大革命を遂行するのが、まさに社会主義建設をめざすわれわれの基本方向であり、基本的闘争目標です。

われわれは 1970 年、第 5 回党大会を開いて 6 か年計画の雄大な綱領を採択し、1971 年からはその遂行に着手しました。

われわれはこのように戦後 20 年間、社会主義革命と社会主義建設を進めてきました。しかし、社会主義・共産主義をめざす朝鮮人民のたたかいはまだ終わっていません。われわれが社会主義・共産主義を建設するには、まだ相当な時日を要するでしょう。なぜなら、わが国はいまだに統一されておらず、またこんにちの国際情勢にきわめて複雑な変化が生じているからです。それはとくに、かつてわが国が非常に立ち後れた植民地半封建社会であった事情と関連しています。

社会主義革命は、マルクスが革命理論を展開するうえで念頭においたヨーロッパの発達した資本主義諸国で先に起こったのではなく、立ち後れた資本主義諸国や植民地または半植民地諸国で先に起こって勝利しました。これらの国では社会主義制度が樹立されたのちにも、社会主義建設の期間が長引かざるをえません。

共産主義を成功裏に建設するためには二つの要素、すなわち思想的要塞と物質的要塞を占領しなければなりません。物質的要塞を占領しようとするだけでは共産主義を建設することはできません。

共産主義の思想的要塞と物質的要塞をともに占領するためには、思想革命、技術革命、文化革命を徹底的に遂行しなければなりません。思想革命、技術革命、文化革命をともに遂行しようとせず、技術革命にのみかたよってはなりません。それでは共産主義の思想的要塞と物質的要塞を占領することができません。したがってわれわれは思想、技術、文化の 3 大革命のスローガンをかかげ、都市と農村で思想革命、技術革命、文化革命を力強くおし進めています。

いまわが国では思想、技術、文化の 3 大革命が力強くおし進められています。

われわれのおこなう思想革命、反革命を粛清する革命ではありません。

思想革命で重要なのは、すべての人が主人らしく仕事をするようにすることです。また、神秘主義と保守主義をなくすことが重要です。科学というものは知らないうちはむずかしいものですが、わかってみれば簡単なものです。ですから、科学技術を発展させるためには神秘主義を打倒し、経験のない仕事をむずかしく思い、それをできないものと考える誤った考え方をなくし、どんなことでもできないことはないという信念を人びとにもたせるべきです。

われわれは思想革命の遂行において、安逸と奢侈に反対し、質素で緊張した生活をし、自立的民族経済をいっそうしっかりときずく闘争にすべての人を奮起させる政治活動の強化にも力をそそいでいます。

技術革命は勤労者を骨のおれる労働から解放するための革命です。われわれは技術革命の遂行で、骨のおれる労働がかなり残っている採取工業に大きな力を傾けた結果、6 か年計画期間にこの分野で多くの問題を解決しました。

技術革命での基本は、生産工程の機械化、半オートメ化、オートメ化を実現することです。技術革命はとりもなおさず技術革命だといえます。それでわれわれは機械工業の発展をひきつづき優先させ、技術革命をいっそう力強くおし進めようと考えています。

いま工場、企業所に3大革命グループが出むき、技術革命の遂行で多くの仕事をしています。3大革命グループには党活動家だけでなく、大学の教員や大学の最終学年の学生、それにすぐれた技術者も参加しています。各工場に3大革命グループが数十名ずつ出むき、工場の働き手を助けて技術革命を推進しています。

文化革命もまた順調におこなわれています。

あなたがたもご存知のように、わが国では現在、全般的11年制義務教育を実施しています。今度の党創立30周年記念大会の報告でも述べましたが、これからは全社会のインテリ化方針を貫徹する計画です。

われわれはまず、全勤労者に高等中学校卒業程度以上の知識を身につけさせるためにたたかっています。

わが国で45歳以下の人はほとんど高等中学校を卒業しています。しかし、45歳以上の人は過去に学ぶことができなかったため、勤労者中学校を設置し、そこで勉強させています。教育委員会の幹部の話によると、45歳以上の人も向こう数年のあいだに全部勤労者中学校を卒業するようになるとのことです。

われわれはこれに満足していません。文化革命で重要なのは民族幹部を大々的に養成することです。思想革命も技術革命も、勤労者の文化・技術水準が高くなければ成功裏に遂行できません。文化革命と思想革命、技術革命は密接なつながりをもっています。

領袖、党、大衆の一心団結の実現

こんにちわが国では、全人民が党と領袖のまわりにかたく団結しており、一家族のように暮らしています。領袖、党、大衆の断固とした一心団結を実現したことは、われわれの大きな成果です。

領袖、党、大衆の一心団結を桃にたとえることができます。桃は外面に果肉があり、そのなかにかたい殻があり、そのなかに種があります。桃の種

はわが党の首脳部にひとしいものであり、かたい殻は党にひとしいものであり、果肉は大衆にひとしいものだといえます。わが党は洗練された指導力をもった強力な党であり、党のまわりにかたく団結した朝鮮人民は偉大な人民です。

わが国では、領袖、党、大衆が一心団結をなしています。朝鮮人民は自分の領袖を深く尊敬し、自分の党を心から信頼しており、わが党は人民を限りなくいたわり愛しています。わたしは人民との親しみをさらに深めるため、いつもかれらのなかに入ります。金正日同志もやはり人民のなかに入ることを喜びとしています。われわれはつねに人民のなかに入り、かれらの要求と意思を知り、それを党の政策に反映しています。そのため、人民は党の政策を自分のものとして受け入れています。

微動だにしない自立的民族経済建設

わが党の自立的民族経済建設路線は、経済建設の分野においてチュチェ思想を具現したものであります。

われわれは、自力更生の革命精神を発揮し、主として自らの技術と資源、自らの民族幹部と人民の力をよりどころにして国の経済を発展させる原則を堅持しました。わが党のこのような自立的民族経済建設路線は、完全な民族独立と国の繁栄を達成しようとする、朝鮮人民の崇高な志向を反映しているものであります。この路線はわが国の社会主義建設に輝かしい勝利をもたらしました。

今日、わが国の経済は現代技術で装備され、総合的に発展した自立的経済となりました。自立的民族経済を建設した結果、われわれは自力で人民経済をひきつづき急速に発展させ、人民生活をさらに向上させることができるようになりました。われわれの自立的民族経済は、国の政治的自主性を保障し、防衛力を強化する頼もしい物質的基礎となっています。

主体性を確立し自力更生するからといって、門戸をとざして社会主義を

建設しようというのではけっしてありません。われわれは、国ぐにのあいだで有無相通じ、互いに協力しあうことが必要であることを十分に認めており、それを拡大発展させるために努力しています。われわれの立場は国家間の相互協力を、個々の国が自立的民族経済を建設する基礎のうえでおこなおうというものであります。ただこうすることによってのみ、完全な平等と互恵の原則にもとづいて国家間の経済的協力を拡大発展させることができるのです。

政治的自主性とともにまた、経済における自立性を保障することが重要です。経済は社会生活の物質的な基礎です。政治的に完全な自主性を保つためには、必ず経済的に自立しなければならず、経済的に自立するためには、多面的に発達し、自らのしっかりした原料基地をもち、そして現代技術で装備された民族経済を建設しなければなりません。われわれは、自国の資源と技術、人民の労働によって国と人民の経済生活を自力でまかなえる経済を建設するという自立経済建設路線を貫いた結果、かつて立ち後れた植民地農業国であったわが国を、きわめて短い期間に自立的経済の強固な土台をもつ社会主義工業国にかえました。

わが党は、人民が新しい生活創造の道を踏み出した当初から、自力更生の原則で、自国の資源と技術、自国人民の労働にもとづいて国の経済と人民の生活を自力でまかなう自立的民族経済を建設するという路線をうちだし、その貫徹のためにたたかいました。

自国のしっかりした原料基地にもとづいて工業を発展させることは、自立経済建設におけるきわめて重要な問題の一つです。

一部の人は、原油発電所を建設する方向でわが国の動力工業を発展させるべきだと主張しました。しかしわが党は、外国から原油を輸入して発電所を運営するのは不安定だとみなし、わが国に豊富な水力資源と石炭を利用して動力問題を解決する方向に進みました。このようにしたため、こんにちわが国の経済は世界的燃料危機の影響をいささかもうけていません。われわれは、すべての工業部門で原料の 70%以上を自国で解決するという方針をし

っかりと堅持しました。

近年わが国の経済が、世界的な経済変動にもびくともせず、ひきつづき速いテンポで前進している事実は、わが党の自立経済建設路線がいかに正しく、わが国にきずかれた自立経済、主体的工業がいかに威力あるものであるかをはっきりと示しています。

政治的独立は自立経済によって裏打ちされなければなりません。自立的民族経済を建設してこそ、政治的独立を強固にし、民族の繁栄をもたらすことができ、人民に豊かな物質生活を保障することができます。

これまでわれわれの達成した成果は、自立的民族経済の強固な土台をきずきあげたにすぎません。

われわれはこれまでの成果に自己満足するものではありませんが、廃墟のなかから自立的民族経済の土台をきずきあげたことに高い誇りと自負をいだいています。人間が社会主義的に完全な自主的存在となるためには独り立ちしなければならないように、国家も自主独立国家になるためには、独り立ちしなければなりません。他人に支えられて歩くのは不自由であり、またそれでは早く前進することもできません。

われわれは以前多くの困難を体験しましたが、いまでは自立的に歩いていけるようになりました。人民も、党も、国家も、すべてが自力で進んでいけるようになりました。一部の国は、新社会の建設に着手して何十年になっても、まだ自立できない状態にあります。これらの国とくらべてみるとき、われわれにはいっそう自負がわきあがってきます。われわれは独り立ちしているため、さらに早く進もうと思えばそうすることができます。

われわれの前途は洋々たるものがあります。しかしわれわれの行く先には多くの難関が横たわっています。われわれはこれまで困難な道を歩んできましたが、これからも険しい道を歩まなければならないと思います。朝鮮人民には、たちはだかる難関を自力で克服できる力があります。

われわれは人民を、無いものはつくりだし、不足するものは探しだし、

知らないものは学んで、たちはだかる難関を自力で克服するよう教育しており、質は多少劣っても自分のつくった物をもっと大切にするよう教育しています。

わが国の商店には外国製のものは一つもなく、すべてが国産品です。わが国の商店には外国の製品がないのが特徴です。もっとも、国産品の質はまだ多少劣っています。しかしわれわれは、これに失望していません。わたしは人民に、かつてなにもなかったわれわれが自力で品物をつくって使い、国産の布地で衣服をつくって着るのはなんと誇り高いことではないか、とつねづね話しています。しかしわれわれはけっして鎖国政策をとっているのではありません。われわれは門戸を閉ざしてはいません。ただ、外国から日用品を輸入しない政策をとっているだけです。

わが国に外国の製品があるとすれば、それは機械設備です。機械は多少輸入しています。

戦後、機械を輸入するさい、一部の人は機械を食って生きていけるか、といいがかりをつけました。そのときわたしはそういう人に、わが国が自立国家として急速な発展をとげるためには機械を輸入し工業をおこさなければならないといい聞かせました。

もちろん、われわれは経済建設で兄弟諸国の支援をうけました。しかしそれが基本ではありませんでした。わが党はあくまでも自らの主体的力量にしっかり依拠して経済建設を進めました。

いまわれわれは完全な自立的民族経済を建設したということができます。わが国の経済は、完全に独り立ちできるようになったばかりでなく、今後いっそう速いテンポで発展する基礎ができあがりました。こんにちわが国の経済は、世界的にいかなる経済的変動が起ころうとも、その影響をうけることなく、自立的に自信満々と前進することのできる大きな力をもっています。これは現実が証明しています。

現代技術文明から遠くとりのこされていたわが国で、そなえるべきもの

をすべて自力でそなえ、独り立ちできる経済を建設するのは、けっして容易なことではありませんでした。そのうえ国が南北に分断され、アメリカ帝国主義者とその手先の戦争挑発策動が間断なくつづく状況のもとで、朝鮮人民のまえには数多くの障害と難関が横たわっていました。しかし朝鮮人民は、自己の運命の主人は自分自身であり、自己の運命はただ自分で切り開かねばならないという革命的決意をもって、新生活創造の困難で険しい道を勇敢に切り開き、民族経済の自立的土台を成功裏にきずきあげました。

わが党は、社会主義建設におけるすべての問題を朝鮮人民自身の力で解決する革命的原則を堅持しました。

自力更生の革命精神をもたなければ自分の力を信じなくなり、国内資源を動員しようとする努力もしなくなり、結果的には国の経済をすみやかに発展させることができません。もちろん外国の援助も必要です。しかし、あくまでも自力更生を基本にしてたたかってこそ、革命と建設を最大限に促進することができます。それゆえわが党は、他国への信頼心をもつことに反対し、自力で国内資源によって富強な祖国を建設する方針をうちだし、その貫徹へと人民大衆を力強く立ち上がらせました。

人民大衆は革命と建設の主人であり、直接の担当者であります。革命と建設の成果は結局、人民大衆の創造力をいかに引きだすかにかかっています。わが党は、人民大衆のつきることのない創造力を積極的に発揮させることによって、社会主義経済建設で偉大な奇跡を創造することができたのです。われわれの革命と建設が難関と試練に直面したときも、党は人民大衆を信頼し、大衆の力と知恵を引きだしてそれをのりこえてきました。

われわれの経験は、人民大衆に依拠し、広範な大衆をふるいたたせる方法こそ、すべての潜在力と可能性を引きだし、革命と建設を最大限に促進させるもっとも革命的で積極的な方法であり、まさにここに経済建設を非常に速いテンポでおし進めることのできる秘訣があることを示しています。

社会主義教育と民族文化の全面的開花

わが国では文化革命も成功裏に遂行されています。

われわれの進めている文化革命は外国でのそれとは異なります。われわれの示した文化革命の重要課題は、学習を強化してすべての勤労者の知識水準を早急に高めることです。

こんにちわが国では、全党、全人民、全軍が学習しようというスローガンのもとに、すべての人が学習しています。われわれは学習をつうじて人びとの思想も改造し、文化革命の課題も遂行します。

わが国では学生・生徒がかなりの数に達しています。人民学校から大学にいたる各級学校で勉強している学生・生徒数は460万にもなり、そのうち高等技術学校の生徒と大学生だけでも24万に達します。われわれは、託児所、幼稚園の幼児と、人民学校から大学にいたる各級学校の児童・生徒・学生をすべて国家の負担で教育しています。

わが国では、わが党の教育政策を貫いて、青少年教育と民族幹部養成事業で多くの成果をおさめました。

解放直後、われわれには民族技術幹部がいくらもいませんでしたが、いまでは60万に達する大学卒業者と高等技術学校卒業者をもっています。

かつて日本帝国主義者は、朝鮮人に何の技術も教えませんでした。解放直後わが国には、大学を卒業した人は数十人しかいませんでした。日本帝国主義支配当時、わが国に大学はソウルに一つしかありませんでした。そのたった一つの大学にさえも、文科や法科のようなものがあっただけで、技術学校はありませんでした。それで、かつてわが国には弁護士や医者が少々いただけで、民族科学技術人材はいませんでした。

われわれは解放後、わずかしかいないインテリをたいへん貴重な存在として大切にしました。かれらは裕福な家庭の出身ではありましたが、日本帝国主義の民族的差別のなかで教育をうけたため、反帝意識と民族的革命性をもっていました。それでわれわれは、かれらを広く包容して、民族と人民の

ために奉仕するように教育しました。

　われわれの教育をうけたインテリは、新しい祖国の建設に積極的に参加し、とくに民族技術幹部養成事業で多くの仕事をしました。こうして、こんにちわれわれは民族幹部の大部隊をもつにいたったのです。

　いまわれわれは、自己の民族幹部で教育事業を進め、工場、企業所を運営し、国家と社会をりっぱに管理しています。われわれは、このような成果を非常に誇らしく思っています。われわれがおさめたこのような成果は、わが党と共和国政府の正しい教育政策の輝かしい勝利です。

　これまで朝鮮人民は、文化的な立ち後れをなくし、社会主義的民族文化を建設するたたかいでも大きな成果をおさめました。

　わが国では、もっとも先進的で人民的な教育制度がうち立てられ、人民学校から大学にいたるまでのすべての児童・生徒・学生が無料教育をうけており、学齢前児童は託児所、幼稚園で国家と社会の負担によってすくすくと育っています。とくに 1 年間の就学前義務教育と、10 年間の学校義務教育を与える全般的 10 年制高等中学義務教育の実施によって、わが国のすべての新しい世代は、11 年間国家の恩恵で完全な中等一般教育をうけています。かつて搾取社会で学ぶ権利を奪われていた成人も働きながら学ぶ教育体系に組み入れられ、各自の希望と素質に応じて思う存分学んでいます。こうしてこんにち、わが国は文字どおり全人民が学ぶ「教育の国」、「学びの国」となりました。

　またわが国では、革命的で人民的な文学・芸術がさんぜんと開花発展しており、主体的な科学技術が急速に発展しています。

　わが国で歴史的にきわめて短期間にこのように偉大な社会経済的変革がなしとげられたのは、朝鮮労働党がチュチェ思想を確固たる指導指針とし、新しい社会の建設をめざすたたかいでチュチェ思想を余すところなく具現したからです。

４）祖国統一偉業を実現するための闘争

数十年の長きにわたり、民族分裂の苦痛を体験している朝鮮人民にとって、一日千秋の思いで渇望する最大の念願は、祖国統一である。

統一を渇望する朝鮮民族の最大の念願を実現するために生涯をささげてきた金日成主席の労苦と心血は筆舌にしがたい。

主席の心血と労苦によって、チュチェ思想にもとづいた独創的で合理的な祖国統一思想と方針がもたらされ、祖国統一の前途を示す歴史的出来事が起こった。

（１）朝鮮統一問題にたいする理解

朝鮮の統一問題は、朝鮮民族内部ではなく、外部勢力によって生まれた問題である。

朝鮮の統一問題にたいするもっとも正しい見解をもっている方は金日成主席であった。主席は外国の人士たちに会った席で機会があるたびに、これについて闡明している。

朝鮮統一問題の発生の根源はアメリカ帝国主義の南朝鮮占領

もともとわが民族は、数千年の長い歴史をつうじて、一つの文化と一つの言語をもって暮らしてきた単一民族です。わが国は第２次世界大戦後、外部勢力によって南北にひき裂かれ、外部勢力の干渉のためこんにちまで統一を実現していません。外部勢力はわが民族を分裂させた張本人であり、わが国の統一を妨げている主な障害です。

歴史的に一つの文化、一つの言語をもち、一つの国土で暮らしてきたわが民族は、解放後アメリカ帝国主義者の南朝鮮占領によって、二つにひき裂

かれるようになりました。国土の分断と民族の分裂のため、わが国の南半部の人民は、解放後にも依然として植民地奴隷の状態におかれ、朝鮮革命の前途には重大な難関が横たわるようになりました。

わが国が分断された経緯といまだに統一が実現していない原因をつきとめてみれば、それは主として外部勢力と関係しています。そもそも日本が朝鮮を不法占拠して植民地支配をしなかったなら、分断だの統一だのといった問題自体が生じなかったはずであり、第2次世界大戦後、列強が朝鮮問題を東西間の対立関係にもとづいて処理しなかったなら、わが国は分断されなかったはずです。

祖国統一は朝鮮人民のもっとも大きな念願、民族最大の課題

今日、朝鮮人民の最大の念願は、分断された祖国を一日も早く統一することです。

朝鮮民族は単一民族です。朝鮮民族が長いあいだ二分されているのは非正常なことであり、これは大きな民族的悲劇です。共和国北半部の人民はもとより、南朝鮮人民もひとしく国の統一を望んでいます。民族分裂の悲劇を終わらせ、国を統一しようというのは、全朝鮮人民の一致した念願です。

しかし、わが国は解放後27年がすぎるというのに統一されないまま南北に分断されています。国土の分断と民族分裂の苦痛をなめている朝鮮人民は、こぞって祖国の平和的統一を望んでいます。

平和的祖国統一の機運は、共和国北半部人民だけでなく、南朝鮮人民のあいだでも急激に高まりつつあります。

朝鮮人民の当面している最大の民族的任務は、南朝鮮からアメリカ帝国主義侵略者を追い出して民族解放革命を完遂し、国の統一を実現することであります。

新しい一つの世代が育つというのに、民族の悲願である祖国の統一はおろか、南北朝鮮間の接触や往来すら実現されず、民族分裂の人為的な障壁は

依然としてそのまま残っています。

日がたつにつれ、政治、経済、文化生活のすべての分野にわたって南北の差はますます大きくなり、長い歴史をつうじて形成された単一民族である朝鮮人民の民族的な共通性さえ、しだいに異なったものになりつつあります。

民族の分裂は、国の資源と人民の力を祖国の発展のために統一的に動員、利用する可能性を奪っており、全朝鮮人民にたえがたい苦痛をもたらしています。

南北朝鮮の分裂は、とくに南朝鮮人民の生活に、はかり知れない不幸と災難をもたらしています。

わが祖国の分裂を終わらせ統一を実現せずには、全民族の繁栄は望めず、南朝鮮人民を塗炭の苦しみから救うこともできません。

今日、南朝鮮の広範な人民大衆が国を統一せずには生きてゆけないと叫び、民族的良心をもつ多くの人士が祖国統一のために勇敢にたたかっているのは当然のことであります。

祖国統一はこれ以上遅らせることのできない、さし迫った民族の課題であります。

統一問題の本質は民族の自主権の確立

わが国の統一問題は、本質において、外国帝国主義者に奪われた領土と人民を取りもどし、全国的範囲で民族の完全な自主権を確立する問題です。

わが国の統一問題は、あくまでも朝鮮民族の自決権に属する民族内部の問題です。朝鮮の統一問題はもっぱら朝鮮の主人である朝鮮人民自身によって解決されるべきであり、これにはいかなる外部勢力も干渉する権利がなく、また干渉してもなりません。

民族の内部問題は、民族自決の原則にもとづいて民族みずからの力で解決してこそ、自民族の利益と自国人民の意思に即してりっぱに解決することができます。朝鮮人民は民族の内部問題を自力で解決できる十分な能力と知

恵をもっています。外部勢力がわが国の統一問題に干渉するいかなる理由や口実もありえません。

統一問題の解決で基本は外部勢力の干渉反対、朝鮮人民自らの力、平和的方法

われわれは、祖国の統一をいかなる外部勢力の干渉もなしに朝鮮人民自身の力で、朝鮮人民の意思と利益にかなうよう平和的方法で達成することを一貫して主張しています。

朝鮮統一の基本的障害はアメリカ帝国主義の南朝鮮占領

いまなお全民族の宿願であるわが国の南北統一が実現していないのは、もっぱらアメリカ帝国主義者が南朝鮮を占領してわが国の内政に干渉し、民族分裂政策を実施しているからです。もし、アメリカ帝国主義者が南朝鮮を不法に占領せず、朝鮮人民の祖国統一の偉業を妨げなかったならば、われわれはすでにずっと以前に国の統一を実現したはずであり、4 千万朝鮮人民がひとしく統一された 3 千里の国土で幸福な生活をいとなむことができたことでしょう。アメリカ帝国主義の南朝鮮占領とその侵略政策は、朝鮮民族のあらゆる不幸の根源であり、朝鮮の統一を阻む基本的な障害です。それゆえ朝鮮の統一が実現するためには、なによりもまず、アメリカ帝国主義侵略者が南朝鮮から撤退しなければなりません。

東西ドイツの統一と区別される朝鮮統一問題

朝鮮の場合とドイツの場合とは異なります。ドイツはかつて他の国を侵略した国であり、敗戦国です。しかし、朝鮮は侵略国でもなく、南北朝鮮人民はひとしく統一を念願しています。

一部の国の人たちは、朝鮮もドイツのように、二つの国家として国連に加盟してはどうかといっていますが、それは絶対にできないことです。

わが国とドイツとでは事情が異なります。

ドイツは、かつて他国を侵した侵略国であり、敗戦国であります。それゆえ、ヨーロッパ人はドイツが統一されれば、再び危険な侵略勢力として登場するのではないかと憂慮し、ドイツが統一されるのを歓迎しません。

わが国はかつて他国を侵略した国でもなく、敗戦国でもありません。わが国は統一しても、けっして周辺諸国を脅かす勢力にはならないでしょう。それゆえ、アジア人は朝鮮が統一されるのをこわがりません。朝鮮人民はすべて国の統一を心から願っています。

東西ドイツとわが国の場合とでは、その性格が根本的に異なります。東西ドイツは双方とも分断に賛成しています。かつてドイツは侵略国でした。ところが戦争の結果二つに分かれ、一方は労働者、農民の国家になり、他方は独占資本の国家になりました。東ドイツで労働者、農民の国家を維持することは、結局西ドイツ独占資本の力を弱める作用をするでしょう。そしてドイツ周辺のヨーロッパ諸国は、ドイツが統一し、軍国主義的に強大になることを望んでいません。なぜなら、ドイツが軍国主義的に強大になれば、再び侵略勢力として登場しうるからです。

しかし、わが国の場合はそれとは違います。わが国はかつて他国を侵略した国ではなく、植民地の状態から解放された国です。われわれの周辺にある国ぐには、わが国が統一すれば他国を侵略するするだろうとは思っていません。中国人民とソ連人民もそのように見ておらず、日本人民もそうは見ていません。朝鮮が分裂して争うよりは、統一するほうがアジア諸国にとってもいっそう有利です。日本人民もそう思っており、中国人民とソ連人民もみなそう思っています。

とくに重要なのは、南北朝鮮人民自身が国の分断を望んでいないことです。朝鮮民族は、単一民族として長いあいだ統一国家内で暮らしてきた歴史をもっているので、分断を絶対に望みません。

アメリカは朝鮮をドイツのようにしようとしていますが、朝鮮問題はド

イツ問題と違います。

… …

かつてドイツは、ファッショ国家として他国を侵略して敗北した敗戦国です。ドイツが統一されれば、ヨーロッパ諸国はその脅威をうけるおそれがあります。それゆえ、ヨーロッパの多くの国はドイツの統一を望んでいません。

しかしわが国は、かつて植民地であったし、朝鮮人民は抑圧されていた人民です。わが国は外国を侵略したこともありません。朝鮮人民は単一民族として5千年もともに暮らしてきました。わが国を二つに分裂させる根拠はなにもありません。

わが国は統一されても外国に脅威を与えることはありません。

わが国の周辺諸国はすべて大きな国です。わが国が統一されるからといって、中国やソ連に脅威を与えることができるでしょうか。また日本やアメリカを脅かすことができるでしょうか。

かえって、わが国が外国の脅威をうけています。わが国は大国によって分割されるおそれがあります。いままさに、南朝鮮が大国のいけにえになっているではありませんか。それゆえ、わが国は必ず統一されなければなりません。

政治的に考察するとき、朝鮮問題はドイツ問題とは性格が異なります。ドイツは第2次世界大戦を起こして敗北した敗戦国です。しかし、わが国は侵略戦争を起こした国でもなければ敗戦国でもありません。朝鮮は第2次世界大戦が終わるまで日本帝国主義の植民地であったし、朝鮮人民は反日民族解放闘争をねばり強くくりひろげました。朝鮮が統一されても、他国を侵略したり周辺諸国に脅威を与えたりはしないでしょう。統一されたわが国の脅威を受ける国はありません。中国やソ連もわが国の脅威を受けないだろうし、日本もわが国の脅威を受けることはないでしょう。

（２）朝鮮労働党がうち出した合理的な祖国統一方針

朝鮮労働党がうち出した祖国統一方針は金日成主席が長いあいだ構想を練られた祖国統一思想の輝かしい具現である。

金日成主席は分裂した初期から全朝鮮人民の志向と意思を反映した合理的な祖国統一方針をうち出し、その実現のために精力的に活動した。

これに関連して外国の各人士におこなった主席の教示の内容は下記のようである。

南北総選挙の実施

われわれが一貫して提案している祖国統一の基本方途は、いっさいの外国軍隊を撤退させ、自由な南北総選挙をおこなう方法で、統一した民主主義的な中央政府を樹立することであります。われわれは戦争後だけでも、朝鮮問題の平和的調停のための 1954 年ジュネーブ会議と、その後の数回にわたる朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議で、このような方案をくりかえし提案しました。

われわれの方案は、外国軍隊の撤退を先決条件にしています。外国軍隊が国土を占領している条件のもとでは、民族の自主性と人民大衆の意思表示の自由が保障されないことは、きわめて明らかであります。

現在、北朝鮮にはいかなる外国軍隊もいません。問題は、「国連軍」の名のもとに南朝鮮を占領しているアメリカ軍を撤退させることにあります。

南北総選挙は、外国軍隊を撤退させ、あらゆる外部勢力の干渉を排除するとともに、政党活動の完全な自由と人民大衆の自由と権利が十分に保障される条件のもとで実施されるべきであります。すべての政党、団体および個々の人士が南北朝鮮の全地域で自由に政党活動をし、人民が南北朝鮮の現実を自由に見て、すべてをみずから判断することができるようにならなければならず、民族の独立と繁栄のためにいずれの道を進むべきかを自由に論議し、みずからそれぞれの結論をくだすことができるようにならなければなり

ません。

このような条件をととのえたうえで、一般・平等・直接の秘密投票の方法による南北総選挙をおこなうならば、各階層人民大衆の総意を十分に反映する統一した民主主義政府を樹立することができるでしょう。

われわれはこの方案がもっとも公明正大で、合理的な方案であると確信しており、この方案の実現をめざしていまもやはり全力をつくしています。

すでに、南朝鮮人民と全世界の人民の前に広く公表されているように、われわれは朝鮮の統一を平和的方法で実現することを一貫して望んでいます。われわれの祖国統一方案は、アメリカ帝国主義者を南朝鮮から撤退させたのち、いかなる外部勢力の干渉もうけることなく、民主主義的基礎のうえで南北総選挙を実施し、統一された中央政府を樹立しようというものです。

われわれのこのような主張は、もっとも正しく合理的なものです。それは、われわれの祖国統一方案が全朝鮮人民の確固とした民族自主意識を反映しており、政党の所属と政見の違い、財産の有無と知識程度、信教と性別の差異などにかかわりなく、広範な各階級人民の自由意思にしたがって、民主主義的に統一問題を解決できるようにするからです。

祖国統一の実現をめざす 3 大革命力量

祖国統一の偉業を実現するたたかいで、わが党と共和国政府が堅持している一貫した方針は、三つの革命力量を強めることです。すなわち、わが党と共和国政府は、祖国の自主的平和統一を実現するため、第一に共和国北半部の革命力量を強め、第二に、南朝鮮の革命勢力を強め、第三に国際革命勢力を強めて、それとの連帯を強めるためにたたかう方針を堅持しています。

共和国北半部の革命力量を強めることは、祖国の統一を実現するための決定的な裏づけです。

わが党は、解放後、国土が分断された状況のもとで、共和国北半部を朝鮮革命の強固な基地に変える路線をうちだし、共和国北半部で革命と建設を

力強くおし進めてきました。

これまで、朝鮮労働党と共和国政府は、人民大衆を導いて共和国北半部で民主主義革命と社会主義革命を成功裏に遂行し、社会主義建設を力強くおし進めることによって、われわれの革命力量を政治、経済、文化、軍事の各分野にわたってしっかりとかため、北半部を朝鮮革命の強力な基地に、社会主義的根拠地に変えました。

われわれは、共和国北半部に先進的な社会主義制度をうちたて、搾取と貧困の根源を永久に一掃しました。搾取と抑圧から永久に解放されたわが国の勤労者は、国の主人として自主的で創造的な生活を心ゆくまで享受しています。こんにち、わが国の勤労者はみなチュチェ思想で武装し、党のまわりに一つの思想、一つの意志でかたく団結しています。これは、われわれがかちとったもっとも貴い成果であり、革命闘争と建設事業の新たな勝利のための決定的な裏付けであります。

わが国の統一の前途には、依然として多くの難関と障害が横たわっていますが、われわれにはそれをのりこえ、祖国統一の偉業を実現しうる可能性と力があります。その力は3大革命勢力、いいかえれば、共和国北半部の革命力量、南朝鮮の革命勢力、国際革命勢力です。

われわれはこれまで、共和国北半部の革命力量、南朝鮮の革命勢力、国際革命勢力の強化を、祖国統一の決定的な裏付けとみなし、この三つの革命勢力の強化のために積極的にたたかい、いまもそのためにたたかっています。

われわれは、国土が分断された当初から共和国北半部を朝鮮革命の基地としてかためる方針をうちだし、その実現のためにたゆみなくたたかってきました。その結果、こんにち共和国北半部の革命基地は、政治、経済、軍事のすべての分野にわたってしっかりとかためられました。われわれは、いつでも祖国統一の大事変を主動的に迎えることのできる強固な革命基地をきずいたと確信をもっていえます。

祖国統一の偉業を実現するうえで、南朝鮮の革命勢力を強化するのはき

わめて重要なことです。アメリカ帝国主義者とその手先の搾取と抑圧を直接うけているのは南朝鮮人民です。南朝鮮人民は目覚めて闘争に立ち上がってこそ、アメリカ帝国主義者を追い出し、南朝鮮社会の民主化を実現することができ、祖国の自主的平和統一の実現に有利な条件をつくりだすことができます。

自主、平和、民族大団結の 3 大原則

1972 年に 7・4 南北共同声明が発表されましたが、そのときわれわれは祖国統一の 3 大原則を示しました。

この祖国統一の 3 大原則は第一に、外部勢力に干渉されることなく、祖国を自主的に統一することであります。

わが国の統一問題を朝鮮民族自身が解決せずに、どうして外部勢力に依存して解決する必要があるでしょうか。われわれは自力で祖国を統一しなければなりません。アメリカ帝国主義侵略軍はわが国の内政に干渉せずに、南朝鮮から撤退すべきであります。アメリカ軍の南朝鮮占領はまったく不法なことであり、南朝鮮に駐留しているアメリカ軍はわが国の統一を妨げる基本的障害であります。

祖国統一の 3 大原則は第二に、思想と理念、制度の相違を超越して民族の大団結をはかることであります。

北と南のあいだに思想と体制、政見と信教の違いはありますが、祖国統一を実現するためにはこれを超越して全民族が団結しなければなりません。外国や他民族も思想や体制にかかわりなく友好関係を結び、仲良くしているのに、同じ民族でありながら思想と体制が異なるからといって団結できない理由はありません。われわれが南朝鮮に社会主義制度を強要せず、南朝鮮当局者がわれわれに資本主義制度を強要しなければ、北と南の社会制度をそのまま存続させても民族の大団結が可能です。

北と南が往来や貿易をしながら合作を実現すれば、北と南はともに急速

な発展をとげ、いずれの人民にもよい暮らしをさせることができます。共和国北半部には豊富な資源と発達した重工業があり、南朝鮮には広大な農耕地があります。現在南朝鮮では用水不足のため毎年多くの土地を遊ばせていますが、北と南が合作して感慨工事をすれば南朝鮮の農業生産をすみやかに増大させることができ、米を輸入しなくてもすむでしょう。北と南が合作すれば漁労も共同ででき、われわれが南朝鮮に工業原料を提供することもできます。南朝鮮では外国から原料を輸入するより、自国の原料をもって工業を発展させるほうがはるかに有利でしょう。

北と南のあいだで往来し交流する過程をつうじて互いに理解を深めることができ、そうなれば南北連邦制を実施し、さらには南北総選挙を実施して国の完全な統一を実現することができます。

祖国統一の３大原則は第三に、北と南が互いに武力を使用することなく祖国を平和的に統一することであります。

われわれには「南侵」の意思がありません。朝鮮人民は同じ民族として、北と南に分かれて戦うべきでなく、祖国を平和的に統一すべきであります。

わが党と共和国政府は祖国統一のたたかいにおいて終始一貫、自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則を堅持しています。

自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則は、祖国統一問題にたいする朝鮮民族の主体的な立場と意思を集大成したものです。祖国統一の 3 大原則は、全朝鮮民族の自主的要求と根本的利益にかなったものであり、時代の潮流と世界の進歩的人民の志向にも合致する、もっとも正当な祖国統一綱領です。

高麗民主連邦共和国の創立方案

われわれは昨年（1980 年）の第 6 回党大会で、高麗民主連邦共和国を創立する方法で祖国統一を実現する新たな提案を示しました。

われわれが新たに示した高麗民主連邦共和国創立方案は、北と南に現存する相異なる思想と体制をそのまま容認する基礎のうえで、北と南が同等に

参加する民族統一政府をうち立て、自主・民主・中立・非同盟国家として統一しようというものです。

わが党が示した新たな祖国統一方案は、一日も早く統一を実現しようとする朝鮮人民の一致した志向と、北と南に相異なる思想と体制が存在する朝鮮の具体的現実を反映したもっとも合理的で現実的な提案であり、心から祖国と民族を愛し、祖国の統一を願う人であればだれでも受け入れることのできる公明正大な提案です。

いま、高麗民主連邦共和国創立方案は、全朝鮮人民の一致した支持と賛同を得ています。共和国北半部の人民はもとより、南朝鮮人民とアメリカ、日本をはじめ海外在柱の朝鮮同胞もこの提案を積極的に支持し、民族全体の力を合わせて祖国の統一をめざす闘争に力強く立ち上がっています。

わが党の新たな祖国統一方案は、世界各国人民のあいだでも熱烈な歓迎をうけています。ガーナ人民をはじめ世界の平和愛好人民はこの提案を積極的に支持しており、ひいてはアメリカの政界および各界の多くの人士と人民もわが党の新たな祖国統一方案に大きな共感を示しています。

われわれは祖国の平和的統一を一日も早く実現するために、さしあたって南北連邦制を実施する必要があると考えます。

われわれの主張する南北連邦制は、南北の現在の政治体制をそのままにして、朝鮮民主主義人民共和国政府と「大韓民国政府」の代表からなる最高民族会議を組織し、南北間に提起される政治、経済、軍事、文化の諸問題を解決することによって民族の団結をとげようというものです。南北間に制度上の相違はありますが、南北双方が互いに自己の社会制度を相手側に押しつけない原則を堅持するならば、南北連邦制を実施できない理由などありません。

南北連邦制が実施されれば、南北間により広範な接触と往来が実現し、経済、文化の交流もいっそう順調に実現できるでしょう。南北が経済的に合作し、交流をおこなえば、共和国北半部の発達した重工業と豊富な地下資源を利用して、南朝鮮の経済状態をすみやかに改善することができ、南北朝鮮

人民の生活にとってそれはきわめて有益なものとなるでしょう。南北のスポーツマンと文化人、芸術家が互いに南北を行き来しながらスポーツ競技や芸術公演をおこない、国際スポーツ競技や国際芸術祭に南北単一チームと南北単一芸術団を構成して送ることもできるでしょう。記者も自由に往来しながら取材活動をおこない、平壌とソウルに記者代表部や新聞社の支局を設け、南北間で新聞、雑誌などを交換することもできるでしょう。

このように南北連邦制を実施し、南北間に経済と文化をはじめ、あらゆる分野で広範な交流と往来を実現するようになれば、南北間の不信と冷淡な感情は解消されて互いに理解し信頼する雰囲気がつくりだされ、民族の団結は容易にとげられるでしょう。

「国連軍司令部」が解体され、南朝鮮からアメリカ帝国主義侵略軍が全部撤退すれば、われわれは、南北連邦制をへて国の完全な統一を実現するでしょう。

南朝鮮からアメリカ軍が撤退したのち、ただちに南北総選挙を実施して国の統一を実現すればよいのですが、国と民族が 30 年間も北と南に分裂していた関係上、ただちに南北総選挙をおこなうのはむずかしいでしょう。それゆえ、祖国を完全に統一するための過渡的措置として、当分のあいだ高麗連邦共和国の単一国号による南北連邦制を実施し、民族の利益とかかわりのある問題を共同で協議し、統一的に調整するのがよいと思います。南北連邦制が実施されれば、北と南のあいだに接触と交流が促進され、信頼の雰囲気が生まれ、政治、経済、文化など各分野にわたって民族的団結が達成されるでしょう。そうすれば、民主主義の原則にもとづいて南北総選挙をおこない、全朝鮮の統一政府を樹立することができるでしょう。

祖国の統一にはいろいろな方途がありえますが、われわれは、「国連軍司令部」が解体され、南朝鮮からアメリカ軍が撤退したのち、南北連邦制をへて国の完全な統一を実現するのが、朝鮮民族の利益と朝鮮人民の意思にかなう、もっとも合理的な方途であるとみなします。

祖国統一の5大方針

われわれは南北共同声明発表後、内外の分裂主義者の分裂策動がますますはげしくなる実情にてらして、祖国の自主的平和統一の偉業を促進するため、昨年6月、新たに祖国統一の5大方針をうちだしました。われわれのうちだした祖国統一の5大方針は、北と南の軍事的対峙状態の解消と緊張の緩和、北と南の多面的な合作と交流の実現、北と南の各界層人民と各政党、大衆団体の代表からなる大民族会議の招集、高麗連邦共和国の単一国号による南北連邦制の実施、単一の高麗連邦共和国の国号による国連加盟をその内容としています。

祖国統一問題にたいするわが共和国の根本的な立場とそれを具体的に反映した祖国統一の5大方針は、南北朝鮮の全人民と全世界の進歩的人民の積極的な支持と歓迎をうけています。

全民族大団結10大綱領

わが党と共和国政府は、なんとしても1990年代に祖国統一の歴史的偉業を達成するため全力をつくしており、昨年（1993年）は「祖国統一のための全民族大団結10大綱領」を提示しました。全民族大団結10大綱領は、思想と理念、体制の違いを超越して全民族がかたく団結し、民族の統一と繁栄を実現しようという北と南、海外の全朝鮮同胞の一致した念願を反映しています。

高麗民主連邦共和国創立方案を一日も早く実現するためには、全民族の大団結をはからなければなりません。

全民族の大団結をはかってこそ、高麗民主連邦共和国の創立を確固と保障し、祖国統一の前途に立ちはだかる難関を打開することができます。

全民族の大団結をはかるためには、北と南、海外在住の全朝鮮同胞が思想と体制、党派と政見の違いにかかわりなく、民族共同の利益を前面におし立て、祖国統一の神聖な偉業にすべてを服従させる立場に立たなければなり

ません。民族の将来を大切に思う朝鮮人であるならば、だれでもその過去と現在をとわず民族大統一戦線の結成にのりだすべきです。

高麗民主連邦共和国を創立して祖国を統一するためには、全民族の大団結をはからなければなりません。

高麗民主連邦共和国創立方案は民族の統一をめざす方案であり、したがってそれは全民族の大団結を前提とします。民族の合作と団結なくしては祖国の統一について考えられず、民族の大団結をなしとげずには高麗民主連邦共和国を創立することができません。北と南、海外のすべての朝鮮同胞は、思想と体制、党派と政見の違いをこえて祖国統一の旗のもとにかたく団結し、民族大統一戦線の結成にのりだすべきです。

（3）祖国統一をめざす闘争過程とその展望

朝鮮労働党と共和国政府は国土が分断された当初から、終始一貫、朝鮮の統一問題を平和的に解決しようという念願から出発して建設的な平和提案を数多くうちだし、その実現のために真心を尽くして努力してきた。

そうした努力のなかで 1972 年 7 月 4 日に北と南が共同で採択発表した北と南の共同宣言は朝鮮人民が祖国統一を実現する歴史的闘争過程におさめた注目すべき成果の一つである。

金日成主席は共同声明の内容と今後の祖国統一展望について世界各国の人士に会った席で言及している。

7.4 南北共同宣言発表

われわれは国土が分断された当初から、祖国を自主的に、民主主義的原則にもとづいて、平和的な方法で統一するためにさまざまな合理的方案を示し、たゆみなくたたかってきました。わが党と共和国政府のねばり強い誠意ある努力によって、北と南の対話がはじまり、1972 年 7 月には祖国統一を

めざすわれわれの根本的立場を明らかにした南北共同声明が発表されました。

　われわれの示した自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則を基本内容とする南北共同声明が発表され、北と南の協商が実現したことは、祖国統一をめざす朝鮮人民のたたかいにおいて画期的な出来事でした。そのため、南北朝鮮の全人民はもとより、全世界の人民がこれをたいへん喜び、大きな希望と期待をかけて南北協商を注視しました。

　1972 年に南北間の高位級政治会談に参加するため、南朝鮮から代表がきましたが、そのときかれは、北と南は地球の両極にひとしいのだから、いつになっても一つにはならないといいました。わたしはかれに、朝鮮民族は絶対に永久に北と南に分裂してはいけない、北と南は同じ血筋を引いた一つの民族であるから、必ず一つの朝鮮に統一されなければならない、自主、平和統一、民族大団結の原則で祖国を統一しよう、といいました。民族大団結というのは、思想と理念、体制と信教の違いを超越して、全民族が団結しようということです。わたしはそのときかれに、われわれは南朝鮮に社会主義体制と共産主義思想を強要しはしない、南朝鮮当局者もわれわれに南朝鮮の社会制度を強要したり、共産主義を放棄せよと強要すべきでない、そうすれば全民族の大団結を達成することができる、と説きました。南朝鮮の代表はわたしが示した祖国統一の 3 大原則に賛成し、南朝鮮の最高当局者もそれに賛成するだろうといいました。

　平壌にきた南朝鮮の代表が帰ったのち、わが方の代表がオウルを訪問することになりました。わたしはその代表に、南朝鮮へ行ってみて、南朝鮮の最高当局者もわたしが示した自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則に賛成すれば、それを基本内容とする南北共同声明を発表するようにといいました。わが方の代表が南朝鮮へ行って最高当局者に会ったところ、かれはわたしが示した祖国統一の 3 大原則を無条件支持するといいました。しかしかれは、南北共同声明をただちに発表するには難があるといいました。わが方の代表がソウルから帰ってしばらくしてから、南朝鮮側は南北共同声明の発表に賛

成するといいました。こうして、自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則を基本内容とする歴史的な南北共同声明が発表されたのです。

南北共同声明が発表されたのち、われわれはそれを実践にうつし、祖国の統一を一日も早く実現するため、あらゆる努力を傾けました。しかしわれわれの努力は、内外の分裂主義者による民族分裂永久化策動のため、大きな障害に直面しました。

わたしが示した祖国統一の 3 大原則には、南朝鮮当局者も賛成しました。

南朝鮮代表が共和国北半部に来て帰ったのち、わが方の代表も南朝鮮に行ってあちらの高位当局者と対話をしました。

数回にわたる南北高位級政治会談でわれわれは、祖国統一の 3 大原則を実現するため、北と南が互いに相手側を誹謗中傷せず、北と南の軍隊が互いに戦わず、北と南が多面的な交流をおこない、こうした問題を随時協議し調整するための南北調節委員会を構成し運営することで南朝鮮側と合意に達しました。

南北高位級政治会談の結果、ついに祖国統一の 3 大原則を基本内容とする歴史的な南北共同声明が発表されました。

歴史的な祖国統一の展望

わが国の統一の展望は、一口にいって楽観的です。もちろん、アメリカ帝国主義者とその手先の妨害策動のため、統一の前途には依然として大きな障害が横たわっており、国の統一のためには解決すべき問題がたくさんあります。だからといって、われわれは国の統一の展望について少しも悲観しておらず、楽観しています。アメリカ帝国主義者とその手先はわが国の分断を永久化するためにあらゆる策動をしていますが、敵のいかなる策動も朝鮮の統一を妨げることはできません。全朝鮮人民の積極的な闘争と世界人民の圧力によって、内外の分裂主義者の策動は阻止され、破綻し、わが国の統一は必ず実現されるでしょう。

朝鮮人民は、数千年のあいだ同じ文化と同じ言語をもち、同じ国土で暮らしてきた単一民族です。わが国は絶対に「二つの朝鮮」に分断されてはならず、わが民族は永久に別れて暮らすことはできません。こんにち南北朝鮮の全人民は、統一した国土でともに暮らすことを一致して望んでおり、祖国の統一をめざして積極的にたたかっています。こんにちわが国で祖国の統一を望まず、分裂を企む者は、一握りの南朝鮮反動層とアメリカ帝国主義者の手先だけです。

外部勢力によって人為的に分断された祖国を統一しようとする朝鮮人民の闘争は、世界の進歩的人民の積極的な支持と声援をうけています。逆に、朝鮮の統一を妨げるアメリカ帝国主義者と南朝鮮反動層は、国際舞台でいっそう孤立し排撃されており、世界人民の憎悪と糾弾を浴びています。

南北朝鮮の全人民は、全世界人民の、積極的な支持声援のもとに分裂した祖国を統一するための闘争を力強くくりひろげ、内外の分裂主義者の「二つの朝鮮」策動をはねのけ、祖国統一の歴史的偉業を必ず実現するでしょう。

われわれは、われわれの代に祖国の統一を実現し、次代に統一された祖国を譲り渡すためにたたかっています。もちろんこれがたやすくなしとげられるはずはありません。祖国統一の前途には幾多の難関と障害が横たわっています。

しかしわれわれは祖国統一の前途について楽観しています。

祖国統一は民族至上の課題であり、全民族の切なる願いです。北と南、海外のすべての朝鮮民族が統一を渇望しており、祖国統一の気運は日を追って高まっています。5 千年の悠久な歴史をもつ単一民族が、外部勢力によって人為的に分断された祖国を統一しようという一致した志向と全民族的闘争を阻む力はありえません。

朝鮮の統一は誰かの指導下に実現されるというより、民族共同の志向と努力によって実現されるとみなすべきです。われわれには祖国統一のための民族共同の綱領があります。自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則は、北

と南が共同で合意した祖国統一の根本原則です。われわれは一つの民族、一つの国家、二つの体制、二つの政府にもとづく連邦制方式の統一方案を示しましたが、これはもっとも公明正大で現実的な方案であり、北と南、海外の同胞から積極的な支持と賛同を受けています。全民族が統一を望み、統一勢力が日一日と強化されており、民族共同の統一綱領があるかぎり、わが国の統一は民族の団結した力と共同の努力によって必ず実現されるでしょう。

（４）祖国統一のための国際的支持と連帯の強化

祖国統一のための朝鮮人民の闘争は世界の多くの友人から積極的な支持と声援を受けており、朝鮮の統一問題は正義と平和を愛する世界のすべての人民の大きな関心事となっている。

これは朝鮮の統一に有利な国際的環境となる。

金日成主席は祖国統一に有利な国際的環境をつくりだすために精力的な対外活動をおこなった。これに関連して金日成主席が外国の人士たちにおこなった教示の内容は次のようである。

朝鮮問題は世界問題の一部分であり、朝鮮人民の祖国統一偉業は、国際的な支持声援のもとでのみ成功裏に実現します。したがって、われわれの祖国統一偉業にたいする世界人民の支持と連帯を強化し、アメリカ帝国主義者とその手先の南朝鮮かいらい一味を国際的に孤立させることが重要です。アメリカ人民を含む世界の多くの人民が朝鮮人民の正義の闘争を積極的に支持声援するならば、アメリカ軍は南朝鮮から撤退せざるをえなくなるでしょう。

朝鮮の統一問題を解決するためには、つぎに朝鮮の統一を支持する国際世論をさらに喚起して、南朝鮮でアメリカ帝国主義者が強行している不当な行為を広く世界人民の面前に暴露することが重要です。

今後、朝鮮問題にたいする世界人民の世論をいっそう力強く喚起する必要があります。こうして、朝鮮人民が祖国と民族の分裂のために味わってい

る民族的不幸と苦しみの実態を、世界のより広範な人民によく知らせる必要があります。

いま南朝鮮当局者は、スペインのフランコ一味のようなファッショ化を南朝鮮で実施しようと策動していますが、それは実現不可能な妄想にすぎません。

われわれは今後、南朝鮮におけるアメリカ帝国主義者の犯罪的蛮行とファッショ的圧政のもとで、南朝鮮人民がなめている苦しみを世界の人民に広く知らせ、朝鮮問題にたいする国際世論をいっそう力強くもりあげるつもりです。いまのところ、南朝鮮の事態にたいする世界人民の世論は相応の水準に高められていません。

朝鮮人民の統一偉業を支持する世界人民の世論をいっそう力強く喚起してこそ、朝鮮で戦争を防止し、アジアの平和を維持し、朝鮮の統一を平和的な方法で実現することができます。われわれは朝鮮問題にたいする世界の世論をいっそうもりあげ、朝鮮問題がアジア問題でも世界問題でも焦点となるよう、積極的に努力するでしょう。

朝鮮問題にたいする世界人民の世論が高まれば、南朝鮮人民と民主的な人士もいっそう目覚めるようになり、かれらの闘争意欲と気勢も高まるでしょう。とくに日本で、祖国統一の実現をめざす朝鮮人民のたたかいを支持する連帯運動が活発に展開されるならば、それは南朝鮮人民の民主化運動をさらに励ますことになるでしょう。

朝鮮人民は朝鮮問題を自分で解決することを主張するとともに、この問題の国際的関連性も尊重します。

朝鮮人民は、アジア諸国が広範に参加する関係諸国の極東会議を早急に招集することを望んでおり、その会議で朝鮮問題を討議することを主張します。インド政府はこれにたいして積極的に支持しています。われわれはまた、朝鮮問題に関心をもつ関係諸国が朝鮮問題の平和的解決のために努力し、朝鮮で平和を保障する義務を担うことが必要であると認めます。

われわれの平和統一のスローガンはきわめて正しいものであり、それは世界各国人民の積極的な支持をうけています。世界各国人民がわれわれの平和統一のスローガンを支持すればするほど、敵により大きな恐怖を与えることになるでしょう。しかし、わが国にたいするアメリカ帝国主義者のゆがめられた宣伝のため、世界の一部の人は祖国統一のための朝鮮人民の正当な闘争を正しく理解していません。こうした状況にてらし、あなたがたのような進歩的人士が世界各国の人民のあいだで朝鮮人民の祖国統一偉業を支持する活動を積極的に展開することが重要であります。

朝鮮人民は世界各国人民の積極的な支持声援のもとに必ずや祖国統一の偉業を成就するでありましょう。

世界の絶対多数の国も朝鮮の統一を願っており、国の統一をめざす朝鮮人民の闘争に積極的な支持声援を寄せています。数日前にアルジェリアで開催された第4回非同盟諸国首脳会議では、朝鮮の内政にたいするあらゆる形の外部勢力の干渉にピリオドを打ち、国連の旗のもとに南朝鮮を占領している外国軍を撤退させ、「国連韓国統一復興委員団」を解体し、朝鮮の国連加盟は国の統一が完全になしとげられたのちか、または南北連邦制が実施されたのち、単一国号によって実現されなければならないという「朝鮮問題にかんする決議」を全会一致で採択しました。

アメリカ帝国主義者がいかに「二つの朝鮮」をつくりだそうと策動しても、それは無駄骨にすぎません。朝鮮人民は、世界の進歩的人民の積極的な支持と声援のもとに、団結した力によってアメリカ帝国主義の「二つの朝鮮」策動を断固粉砕し、必ずや祖国の自主的平和統一をなしとげるでありましょう。

わが党と共和国政府の正しい対外政策によって、朝鮮革命の国際的連帯はいちじるしく強化されました。わが党と共和国政府の国際的地位は非常に高まり、社会主義諸国人民と世界の平和愛好人民、とくに第3世界の人民は、祖国の自主的平和統一をめざす朝鮮人民の正義の闘争を積極的に支持声援しています。これは、朝鮮人民の革命闘争を大いに励ましています。

われわれは遠からず、世界人民の積極的な支持声援のもとに、南北朝鮮全人民の団結した力によって、祖国の統一を妨げる内外のあらゆる障害を取り除き、祖国の自主的平和統一の偉業をなしとげずにはおかないでしょう。

朝鮮人民と世界の進歩的人民との国際的連帯もいっそう強まっています。こんにち朝鮮人民は、世界のいたるところに朝鮮革命にたいする数多くの支持者と共鳴者をもっています。

これらのことは、朝鮮人民が、世界の自主的平和統一をめざすたたかいで勝利をかちとることのできる強固な裏付けであります。

われわれは、南北全朝鮮人民の団結した力によって、そして世界の進歩的人民の積極的な支持声援によって、アメリカ帝国主義者と南朝鮮のかいらい一味の新たな戦争挑発策動と「二つの朝鮮」策動を粉砕し、遠からず祖国統一の歴史的偉業をなしとげるものと確信しています。

朝鮮人民は、祖国の統一をめざすたたかいで、世界各国人民の国際的支持と声援を非常に重視しています。

われわれはこれまでと同様、今後とも正義を愛する世界のすべての平和愛好人民が、「国連軍」の看板のもとに南朝鮮を占領しているアメリカ帝国主義侵略軍を撤退させるための朝鮮人民の闘争に強い連帯を示すものと確信しています。われわれはまた、世界のいたるところで、アメリカ帝国主義者と南朝鮮のかいらい一味を徹底的に孤立させ、その侵略策動と民族分裂策動を糾弾し、南朝鮮人民の民主化運動を積極的に支持声援する国際的連帯の声がよりいっそう高まることを期待しています。

３．世界の自主化とチュチェ思想

金日成主席は生涯の全期間、世界の進歩的人類を社会的進歩と繁栄の道に導くために精力的な活動をくり広げた。

チュチェ思想で人類の自主偉業を導いた金日成主席の業績は、人類史とともに末永く伝えられるであろう。

１）現代は自主性の時代

20 世紀を分岐点にして世界はその姿を完全に異にした。支配と従属に反対する自主の熱風が燎原の炎のように急速に波及されて全世界を席巻した。それはある一国、地域に限らず、その範囲を脱してアジア、アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパの大陸を席巻し、全世界に波及された。自主の激しい流れが天地をとどろかす世界になった。

チュチェ思想の創始者である金日成主席がこのように大いなる変革が起こっていた 20 世紀を自主性の時代であるという明哲な定式化を与えた。

われわれはここで、金日成主席が現代を自主性の時代であると評価した教示について顧みることになる。

（１）自主は今日、世界政治情勢の特徴

今日、世界政治情勢は一言でいって、反帝自主をめざす人民の闘争が日増しに強化されている反面、支配権を維持し拡張するための帝国主義者の侵略と戦争策動がさらに露骨になっていることによって特徴付けられる。

自主性の時代

現代は自主性の時代です。

第2次世界大戦後、世界の多くの国が独立を達成しました。フランス、イギリス、スペイン、ポルトガル、オランダなどが多くの植民地をもち、世界の各大陸を支配した時代はすでにすぎさりました。かつて植民地的従属化にあった国ぐにが、いまではほとんど解放されました。

長いあいだ、帝国主義、植民地主義の圧制のもとで苦しんでいた被搾取、被抑圧人民が自由と解放と民族独立のために勇敢にたたかった結果、現代は帝国主義が落日の運命に陥り、抑圧されさげすまれてきた人民が歴史の舞台の主人公として登場する時代に変わりつつあります。

われわれの時代は自主性の時代です。世界の多くの国が自主性を志向しており、あらゆる形態の支配と従属に反対してたたかっています。諸国人民が自主性を要求し、多くの国が自主の道を進むのは、いかなる力によってもとどめることのできないわれわれの時代の基本的すう勢です。世界のすべての国は自主性を志向する現代の流れにふさわしく、国際的正義と平等の原則で尊重し協力し合い、人類の共栄のためにともに努力すべきでしょう。

世界のすべての大陸を席巻する自主の激流

かつて抑圧され、さげすまれた人民が世界の主人として登場し、歴史を力強くおし進めており、自主性のはげしい潮流が世界の全大陸に打ち寄せています。人民が自主性を要求し、自主の道に進むのは現代の基本的すう勢です。

全世界が自主性を要求

いま、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの新興独立諸国人民のあいだでは、自主性を求める声がいつにもまして力強くわき起こっています。わたしはアジア、アフリカ諸国の国家元首をはじめ多くの人に会いましたが、かれらもみな自主の道に進むことを望んでいます。

いま、世界の多くの国が自主性を求めています。第3世界諸国も自主性を求めており、社会主義諸国も自主性を求めています。発達した資本主義諸国の人民もやはり自主性を求めており、自主的に進むためにたたかっています。

いまはいかなる国も他国に従属させられるのを望みません。

現代は自主性の時代であり、世界の人民はみな自主性を求めています。社会主義諸国とアジア、アフリカ、ラテンアメリカの新興諸国はいうまでもなく、一部の資本主義国も自主性を求めています。フランスも自主性を求めており、日本もアメリカの統制からぬけだそうとしており、カナダもアメリカの指図をうけるのをけむたがっています。もちろん、日本の反動層は自主性を求めていませんが、日本人民と日本の社会層や言論界は自主性を求めています。さらには日本の与党内にも、自主性を求める人が少なくありません。世界の多くの国が自主性を求めるのは歴史発展上きわめて好ましいことです。

こんにち世界の多くの国の人民が自主性を求めており、あらゆる形の従属に反対してたたかっています。かつて帝国主義、植民地主義の圧制のもとで長いあいだ苦しんできた被搾取人民と被抑圧人民が歴史の舞台の主人公として登場し、自己の運命を自主的に切り開いています。こんにち国際舞台では、社会主義諸国と第3世界諸国はいうまでもなく、一部の資本主義国でさえも自主性を求めています。これは、世界の人民が自主の道に進むのが時代の潮流となっていることを物語るものです。

世界の人民が自主性を求めるのは当然のことだと考えます。なんぴとであれ他人に従属して生きることを望みはしないし、民族の尊厳と自主権が侵害されるのを容認しようとはしないでしょう。

（２）全世界の自主化は時代の基本すう勢、人類共同の偉業

自己の運命を自らの手に掌握した人民が､あらゆる支配と従属に反対し自主の道に進むことはわれわれの時代の基本すう勢であり､全世界の自主化を実現するためにたたかうことは､自主性を擁護するすべての国の人民の共同の偉業である。

金日成主席は外国の人士との接見で自主化された世界を建設するうえで提起される問題について具体的に解明した。

全世界の自主化は世界の強固な平和、新しい社会への大路

全世界の自主化を実現してこそ、新たな世界戦争を防ぎ、世界の強固な平和を維持し、すべての国と民族が独立、繁栄の新しい社会を建設して人民大衆の自主性を完全に実現する大路を開くことができるでしょう。

支配と従属がなく､侵略と戦争のない自由で平和な新世界を建設するのは、世界各国人民の共通の志向であり、現代が提起している歴史的な課題であります。

歴史の前進運動の障害となっていた冷戦は終結しましたが､自主の潮流に逆らい力で世界制覇をとげようとする旧勢力はまだ残っています｡冷戦の時代には超大国間の対決のため一時的におおい隠されていた帝国主義の諸矛盾が､冷戦の終結とともに露呈されてさまざまな問題を生みだしています。現在、西側の世界では利害関係によって互いに排斥し、また結託するという複雑な関係のなかで、新たなブロックを形成しようとする動きがみられ、政治的・経済的・軍事的支配圏を拡大する策動が露骨化しています。同時に、発達した資本主義諸国と発展途上諸国との貧富の差はますます大きくなっています。旧勢力の手中にある核兵器と軍事ブロック、財力と反動的なブルジョア文化をはじめあらゆる手段が支配と略奪､侵略と干渉の道具に利用されており、ほかならぬ非同盟諸国と発展途上諸国がその主なる対象となり、

いけにえとなっていることを忘れてはなりません。

人類が願望する自主的な新しい世界を建設するためには､歴史によって否定された冷戦時代の遺物を一日も早く清算し､歴史の潮流を過去へ逆行させようとするあらゆる策動を阻止するとともに､すべての国と民族が国際舞台で平等な自主的権利を行使することができるよう国際社会を民主化しなければなりません。

ヨーロッパ諸国と第3世界諸国における自主化の実現

全世界の自主化で重要なのは､先進諸国が集中しているヨーロッパの自主化を実現することです。

現在、ヨーロッパでは中性子兵器の製造とその配備に反対し、核戦争に反対する反戦・反核平和運動が力強く展開されています。近年、フランスをはじめヨーロッパ諸国では社会党､社会民主党があいついで政権を握りましたが、これもやはり注目すべき出来事です。

わたしは､わが国を訪問したヨーロッパ諸国の社会党や社会民主党の幹部に会い、かれらにヨーロッパの自主化問題について述べました。かれらはみなヨーロッパの自主化が切実に必要であることを認めています。

ヨーロッパ諸国の社会党や社会民主党は政権を握ったあと､一連の国際問題でアメリカと見解を異にしており､アメリカの政策に盲従していませんが、これは非常によいことだと思います。

われわれはヨーロッパの徹底した自主化を望みます。いいかえれば、ヨーロッパ諸国が列強に追随して戦争政策を実施する道へ進むのではなく､戦争に反対し自主的な政策を実施する道へ進むよう望みます。

ヨーロッパの資本主義諸国が自主的な政策を実施し､新しい国際経済秩序を確立しようとする発展途上諸国、第3世界諸国の要求に応ずるならば、なおさら結構なことです。ヨーロッパの資本主義諸国が発展途上諸国、第3世界諸国とともに積極的に努力して公正な新しい国際経済秩序を確立する

ならば、現在の経済危機を容易に克服し、自立的民族経済を建設するためにたたかっている発展途上諸国、第3世界諸国にも大きな援助を与えることができるでしょう。

全世界の自主化を実現するうえでまた重要なのは、第3世界諸国を自主化することです。

いま、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの新興独立諸国人民のあいだでは、自主性を求める声がいつにもまして力強くわき起こっています。わたしはアジア、アフリカ諸国の国家元首をはじめ多くの人に会いましたが、かれらもみな自主の道に進むことを望んでいます。

ラテンアメリカの情勢については、あなたがたがよくご存知のことと思いますが、わたしの見たところでは、フォークランド事件を契機にラテンアメリカの多くの国で反米機運が高まり、自主的に進もうとする傾向が強まったようです。われわれはラテンアメリカのすべての国が自主の道へ進むことを望みます。ラテンアメリカ諸国の自主化が実現すれば、その地域でのアメリカの孤立はまぬがれないでしょう。わが国のことわざに「独不将軍」というのがありますが、これはひとりでは大将になれないという意味です。アメリカも単独ではどうすることもできません。

反帝自主勢力の団結と行動における一致強化

アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国人民の団結と協力は、帝国主義者と植民地主義者に抑圧されている諸国人民間の団結と協力であり、アメリカをかしらとする帝国主義の侵略に反対し、民族の独立と繁栄をめざす正義の闘争における団結と協力であります。われわれは、相互の境遇をよく理解し同情しあい、真の平等と互恵の原則にもとづいて緊密に協力することができます。われわれの団結と協力は、全世界の進歩的人民の団結とその共同偉業に大きく寄与するものであります。

反帝反植民地主義の旗のもとに、すべての被抑圧民族はかたく結集し、

互いに支持声援しなければなりません。解放された諸国間の政治的・経済的・文化的連係と相互協力をたえず拡大し発展させなければなりません。われわれが共同で協力するならば、このような団結と協力はますます強化され、さらに偉大な力を発揮するでしょう。

アメリカ帝国主義者はなによりも、世界の革命的人民の連合した力を恐れている。それゆえ、かれらは術策のかぎりをつくして反米統一戦線の結成を妨げ、弱小国を一つ一つ征服する戦略をもちいている。アメリカ帝国主義のこのような戦略を徹底的に破綻させなければならない。アジア、アフリカ、ラテンアメリカの国ぐには社会体制を異にしており、またこれらの国ぐにには政見を異にする多くの党派がある。しかし、帝国主義の手先を除いては、これらすべての国ぐにと党派はアメリカをかしらとする帝国主義侵略勢力に反対するうえで一致した利害関係をもっている。社会体制の相違や政治的理念の違いは、力を合わせてアメリカ帝国主義とたたかい、共同の歩調をとるうえで決して障害とはなりえない。自己の特殊な国家的利益や党派の利益を前面にかかげて反米統一戦線を分裂させたり、共同行動を拒んだりすることが許されてはならない。このような行動はアメリカをかしらとする帝国主義にだけ有利で、革命的人民にとっては有害であるだけである。

帝国主義に反対する共同闘争で、すでに勝利した革命を守ることはきわめて重要である。

南南協力の発展

発展途上諸国、第3世界諸国が自立的民族経済を建設して経済的自立を達成するためには、南南協力を実現する必要があります。

われわれは南南協力を十分実現できるものと考えています。第3世界諸国は民族の独立を達成し、新しい社会の建設をはじめてからだいたい数十年をへているので、どの国でも1,2種類以上のすぐれた技術と経験をもっており、ある程度の経済的基盤も築かれています。第3世界諸国がすでに築き上

げた経済的基盤にもとづいて経済協力を強化し､互いにすぐれた経験と技術を交流するならば､先進諸国の助けを借りなくても経済をすみやかに発展させることができます。

発展途上諸国は先進諸国にたいする崇拝思想を捨て､南南協力を実現するために大いに努力すべきです。

南南協力の実現は、先進諸国に圧力を加えることにもなります。発展途上諸国が交流と協力を強めて経済的自立を達成し､教育と文化を早急に発展させるならば､現在とは逆に先進諸国がわれわれを訪ねてくるようになるでしょう。

教育･文化分野においても発展途上諸国間の交流と協力をりっぱにおこなえば、大きな成果を達成することができます。

南南協力の実現は､第3世界諸国が当面の経済的難関を克服して経済的自立を達成し、新国際経済秩序を確立するうえで、きわめて重要な問題として提起されます。

発展途上諸国は南南協力を実現できる大きな潜在力をもっています。これらの国は豊かな天然資源をもっており､新社会建設の過程で得たりっぱな経験や技術も一つや二つはもっています。発展途上諸国が集団的自力更生と有無相通ずる原則のもとに､相互協力の可能性を最大限に利用して南南協力を多面的に拡大発展させるならば､大国の世話にならなくても経済と文化を発展させ、人民の生存を脅かす飢餓と貧困、疾病と無知から抜けだし、新社会建設における多くの困難で複雑な問題を成功裏に解決することができます。

非同盟諸国をはじめ発展途上諸国は､南南協力を多面的に拡大発展させる効果的な対策を立て､それを実践に移すためともに努力しなければなりません。

（3）世界人民が共感、かれらの志向に合致するチュチェ思想

自主性の時代である今日、自主の思想であるチュチェ思想が世界人民の志向に合致し、またかれらのあいだで大きな共感を呼び起こしていることは、当然であり自然なことであると見ることができる。

これに関して金日成主席が世界各国の人士たちにおこなった教示を顧みる。

チュチェ思想が、いま世界の広範な人民のあいだで大きな共感を呼び起こしているのは、なによりもチュチェ思想が自主性を求める世界の人民の志向と念願にかなっているからだと思います。

こんにちの時代は人民が自主性を求める時代です。こんにち社会主義国の人民はもちろん、資本主義諸国の人民も自主の道を進もうとしており、とくに長年、帝国主義者に搾取され抑圧されてきた第３世界の人民は、自主の旗を高くかかげて進んでいます。

チュチェ思想は朝鮮革命の必要から発し、そして朝鮮革命の経験にもとづいてわれわれが最初にうちだした思想ではありますが、世界の人民の志向と念願にも全面的にかなっている思想です。

またチュチェ思想が第３世界人民のあいだで大きな共感を呼び起こしているのは、それが第３世界の人民に新生活の創造をめざす闘争のもっとも正しい道を示しているからだと思います。

こんにち第３世界の人民には、すでにかちとった民族の独立を強固にし、国の繁栄をとげるべき課題が提起されています。ここでまず問題となるのは、資本主義への道を進むべきか、社会主義への道を進むべきかということです。そのために、いま第３世界の多くの国は社会主義を志向しています。

第３世界諸国が社会主義への道に進むためには、社会主義諸国の経験に学ぶことが必要です。しかし、社会主義諸国の経験が第３世界諸国にそのままあてはまるというものではありません。それゆえ第３世界諸国が社会主義

の道を進もうとする場合、社会主義諸国の経験を自国人民の利益と自国の実情に即して適用すべきです。いわば、主体的な立場が求められるわけです。

チュチェ思想は朝鮮革命の要求から、朝鮮人民の経験にもとづいてわれわれが創始した思想ではありますが、現代のすう勢を反映しているため、世界各国人民の共感を呼んでいます。

… …

人民がどのような思想を支持し、どの道に進むかは、みずからの意思によって決められる問題です。チュチェ思想は、自己の運命の主人は自分自身であり、自己の運命を開拓する力もまた自分自身にあるとみなしています。第3世界諸国の人民が自己の運命の主人であるという高い自覚をもって、自己の前途を自主的に開拓していくならば、かならずや輝かしい未来がもたらされるでしょう。

いかなる支配と束縛も受けず、自主的に生きるのは、社会的人間本来の要求です。他人に従属して奴隷として生きることを望む人は世にいません。世界の主人として自己の運命を自主的に切り開いていくのは、すべての国の人民の共通の志向であり、あらゆる支配と従属を一掃し、人民大衆が真の主人となる自主的な新しい世界を建設することがほかならぬ現代の要求なのです。

チュチェ思想はけっして、どの国の革命もわれわれの方式で進めることを要求するものではありません。チュチェ思想は、革命と建設を自国の実情に即しておこなわなくてはならないという思想です。

チュチェ思想は社会主義諸国にも必要であり、他の国ぐににも必要であります。なぜなら、チュチェ思想は人民を正しく教育し、革命と建設を成功裏に推進させる正しい思想であるからです。

チュチェ思想は朝鮮革命の実践的要請から、朝鮮人民の闘争経験にもとづいてわれわれがうちだした思想ですが、これがこんにち世界人民のあいだで広範な支持と共感を呼び起こしているのは、あらゆる支配と従属に反対し

自主性を志向する現代のすう勢と、自己の運命を自力で開くわれわれの時代の人民の念願にかなっているからだと考えます。

2）国際社会主義運動強化の発展

つねに国際社会主義運動の実態について深い関心を寄せている金日成主席の精力的な活動によって、社会主義諸国間の統一団結を強化する問題から諸国で社会主義が挫折、崩壊した原因と教訓、社会主義再建運動における諸問題にいたるまで社会主義運動の実践において提起されるすべての問題が解明されるようになった。

（１）社会主義諸国間の統一団結

反帝自主偉業遂行において重要な役割をおこなう社会主義運動が自らの当然の影響力を行使するためにはまず、社会主義諸国間に統一団結をなしとげる問題から正しく解決しなければならない。

しかし去る 20 世紀を振り返ると国際社会主義運動内では統一団結とは縁もゆかりもないわずらわしい事態がしばしば生じて、予期しなかった後腐れがかもし出されていた。

そのつど、朝鮮の金日成主席はかもし出された事態の深刻さと危険性をだれよりも深く痛感し、社会主義諸国間の統一団結をなしとげることについて切に話した。

下記に紹介される教示は、そのなかの一部を収録したものである。

社会主義諸国間の関係は同志的及び兄弟的関係

社会主義諸国は、共通の目的と理想を実現するため互いに緊密に協力しあっています。

社会主義諸国間の関係は、社会体制と階級的利害関係の共通性にもとづく同志的な関係であり、兄弟的な関係です。そのため社会主義諸国は強固な友好のきずなで結ばれており、これら諸国間の友好・協力関係は社会主義社会の発展にともなってたえず強化発展するものです。

自主性の原則の堅持は団結と協力の前提

われわれは、徹底した自主性の原則を主張します。

現代は自主性の時代です。レーニンが第3インターナショナルを組織したときは、われわれはみな共産主義の幼い生徒であり、学ぶ過程にありました。しかし、いまはレーニンの社会主義革命のときから数えてもほぼ60年になります。その間、共産主義の幼い生徒はみな成人になりました。かれらは、革命闘争と建設事業でさまざまな紆余曲折へたし、多くの闘争経験もつみました。かれらには革命闘争で勝利した経験もあり、失敗した経験もあります。いまでは、かれらは以前のように学ばなくても、苦い甘いも、熱いも冷たいもすべて自分で識別することができます。いまかれらは、教える人がいなくても独り立ちすることができ、またどの道を行くべきかについてもよく知っています。それゆえ、こんにちでは各党がいずれも独り立ちしなければなりません。もちろん、独り立ちする過程には誤りをおかすこともあります。しかし、自分がおかした誤りは自分で改めることができます。だが、他人の指図をうけておかした誤りは自分で改めることができません。

個々の国における革命の主人はその国の党です。マルクス・レーニン主義党は自国人民の力を誰よりもよく知っています。

マルクス・レーニン主義党は互いに自主性を尊重し、内政に干渉してはなりません。そうしてこそ、国際共産主義運動の団結を実現し、それを真に

同志的なものにすることができます。

こんにち世界の多くの国と党が自主性を主張しています。

人民が革命をおこなうのは、搾取と抑圧からぬけだし、あらゆる従属から脱するためです。革命をしてもなお他人に従属させられるのなら、革命をする必要はないではありません。世界には大国と小国、大きい党と小さい党はあっても、地位の高い国と低い国、格の高い党と低い党はありえません。国や党はすべて平等です。

こんにちの国際共産主義運動は以前とは異なります。マルクスは労働者階級の革命理論を示し、レーニンはそれを実践に移してロシアでプロレタリア革命の勝利を達成しました。当時はコミンテルンが存在し、マルクス・レーニン主義が普及されていました。

しかしいまでは、世界の多くの国の党が長期間の革命闘争をつうじて、自国の問題は自分で判断し処理できるようになりました。すなわち、すべての党が独り立ちできるようになり、後見人や援助者を必要としなくなりました。

ところが一部の人は、いまなお他の国の党を支配しようとしています。これは時代錯誤的な行動です。

家庭でも、大きくなった子どもたちにむかって、父親があれこれと指図すればいやがられるものです。自分の手でご飯を食べることもでき、なんでも自力でできるというのに、どうしてあれこれと指図する必要がありましょうか。

すべての党は自主性を堅持すべきであり、自主の道を進まなければなりません。

自主性は国際主義と矛盾するものではなく、自力更生は国際的協力を否定しません。国家間の国際的協力は必要であり、また要求されるものです。自力更生を基本とし、国際的に協力しあうのは当然なことです。

個々の国が、自国に必要なものをすべて自力で生産することはできないものです。われわれも、自分たちに必要なものをすべて自力で生産している

わけではありません。われわれは、需要の多いものは自力で生産し、必要量が少ないとか自国にないものは貿易をつうじて解決しています。

先進技術の導入問題についても同じことがいえます。自力更生するからといって、外国の先進技術を導入することなく、自国の技術だけで、すべてのものを発展させなければならないというわけではありません。

… …

われわれは国家間の相互協力を強化する必要があると考えています。社会主義諸国間でも協力し、発展途上諸国間でも協力し、先進諸国と第3世界諸国間でも協力すべきです。

統一と団結の四つの原則

われわれは四つの原則にもとづいて社会主義諸国と団結しています。四つの原則というのは、社会主義が帝国主義に反対すること、植民地や半植民地諸国での民族解放運動と資本主義諸国での労働運動を支持すること、社会主義・共産主義建設をつづけること、内政不干渉、相互尊重、平等と互恵の原則を守ることです。われわれは内政不干渉の原則を主張します。

社会主義国は、他の国がどんな路線をとろうと、それに干渉すべきではありません。一つの家庭のなかでも、朝コーヒーが飲みたければコーヒーを飲み、お茶が飲みたければお茶を飲むといったふうに、誰でも好きなようにさせるべきであって、いちいち口ばしを入れたのでは家庭が円満にいきません。

われわれは絶対に他国の内政に干渉しません。われわれは、社会主義に反対し反革命の道を進まないかぎり、他の社会主義国を非難したりしません。他の社会主義国もわが国の内政に干渉しておらず、もし干渉しようとしても、われわれはそれを許しません。このように互いに尊重しあい、内政に干渉しないので、互いに仲よくつきあっています。われわれはいま、すべての社会主義国との関係がうまくいっています。

わが党はとくに、国際共産主義運動の分裂に反対します。国際共産主義

運動は反帝闘争の中核勢力です。それゆえ、わが党は国際共産主義運動の分裂に同調しません。われわれは、各国の党が確固とマルクス・レーニン主義の原則的立場に立つならば、国際共産主義運動の分裂を防ぎ、統一と団結を実現することができると考えています。

国際共産主義運動の統一と団結を実現するためには、いくつかの原則を守らなければなりません。わが党は、すべての社会主義国が、第一に帝国主義に反対し、第二に、植民地民族解放運動と国際労働運動を支持し、第三に、ひきつづき社会主義・共産主義へと進み、第四に内政不干渉、相互尊重、平等と互恵の原則を守る基礎のうえで団結することを主張しています。とくに、各国の党が自主性を堅持し、他の国の党の自主性を尊重することが重要だと考えます。

（２）1990年代の各国における社会主義崩壊の原因

さる世紀の末に入りながら、ソ連と東ヨーロッパ諸国では社会主義があいついで崩壊する悲劇的な事態がかもし出された。

これを契機にして帝国主義者は社会主義を志向する世界の進歩的勢力にたいする反社会主義的宣伝キャンペーンをさらに露骨におこなった。さらに見逃すことができないのは社会主義を志向していた多くの国の党と進歩勢力のなかで社会主義にたいする信念を失い放棄する思想的混乱がかもし出されることである。

現事態を早急に正すことは社会主義運動の運命と前途にかかわる極めて重大な問題として提起された。

まさにこのとき、金日成主席は社会主義の運命をかけて社会主義を危機から救い出すための精力的な思想理論活動を展開した。

根本原因は社会主義の基本原則を守らなかったこと

一部の国で社会主義が挫折した原因はいろいろありましょうが、その根本的原因は、それらの国が社会主義の基本原則を守らなかったことにあります。社会主義社会は人民大衆が国家と社会の主人となった社会であり、人民大衆の創造的役割によって発展する社会です。人民大衆が国家と社会の主人の地位を占め、主人としての役割を果たすようにさせるのが、まさに社会主義建設で堅持すべき基本原則です。この原則を具現するには、人民大衆を社会主義思想で教育し、社会主義的集団として統一団結させなければならず、党の指導のもとに大衆路線を貫徹し、国家管理において社会主義的民主主義を全面的に発展させなければなりません。こうしなければ反社会主義的思潮の浸透を防ぐことができなくなり、官僚主義が増長して人民大衆が国家と社会の主人としての役割を果たすことができず、社会主義がその優越性を発揮できなくなります。一部の国では、社会主義建設において第一義的に解決すべきこのような根本問題にしかるべき関心を払わなかったため、社会主義が生命力を失い、社会主義偉業の挫折をまねくようになったのです。

現代修正主義者の執権

ソ連が崩壊しはじめたのは、現代修正主義者らが執権したときからです。かれらは党建設の原則を放棄し、党を系統的に弱体化させました。そして最後には、ソ連共産党の指導者たちは「新思考方式」を提唱し、帝国主義者の唱えるコスモポリタニズムを受容しました。コスモポリタニズムとは世界主義という意味です。アメリカ帝国主義者は以前からコスモポリタニズムを世界制覇の野望をとげる思想的道具として利用してきました。ソ連共産党は、スターリンが執権していた当時はコスモポリタニズムに断固反対してたたかいました。スターリンは、アメリカ帝国主義者がコスモポリタニズムを唱えるや、それが世界制覇の「平和的移行」戦略を実現するためのものであることをいち早く読みとったようです。スターリンの弟子の一人であったジダ

ーノブは、第2次世界大戦後ソ連の文学・芸術分野にコスモポリタニズムの傾向があらわれるや、作家、芸術家と人民のなかに入ってそれに反対して断固たたかうよう強調しました。

以前のソ連共産党の指導者たちが提唱した「新思考方式」は投降主義的思考方式です。帝国主義者とたたかわず、協調して共存すべきだというのが、かれらの提唱した「新思考方式」の内容でした。帝国主義者と協調して共存しようというのは、結局かれらに投降することです。帝国主義は決して本性が変わりません。帝国主義は独占資本主義です。これはレーニンによって示された命題です。独占資本にもとづく帝国主義とたたかわず放置するなら、それは他の国ぐにを侵略し略奪する道へ進むものです。ところが、ソ連共産党の指導者たちが帝国主義者に幻想をいだいてかれらとの協調を説いたため、結局ソ連は帝国主義者の反社会主義攻勢を防ぎきれず滅びてしまったのです。70 年ものあいだ社会主義を建設してきたソ連が、一朝にして崩壊するというのはまったく想像しがたいことです。ソ連を滅ぼした社会主義の背信者たちには、共産主義者としての体面はおろか民族的良心もありません。かれらにいささかなりとも愛国主義精神があったなら、ソ連があのようにまではならなかったでしょう。社会主義の背信者たちは連邦を解体し、いまはアメリカのいうがままに動いています。

ソ連はスターリンの死後、修正主義に陥ったため、崩壊したのです。ソ連は、領土も世界陸地面積の6分の1を占め、人口も2億9千万に達する大国であり、1,800 万の党員を擁し、社会主義建設も 70 年以上おこなってきましたが、一朝にしてすべてを無にしてしまいました。ソ連共産党は、70余年の社会主義建設の歴史をもっていましたが、官僚主義をふるい、党活動の基本である対人活動をおこないませんでした。人民のあいだで思想教育を怠ったため、かれらは金に目がくらみ、レーニン主義を守りとおさず、金儲けにのみ、没頭するようになりました。人びとを社会主義・共産主義思想で教育せず、金と自家用車、別荘しか知らない人間にしてしまったので、結局

は、滅んでしまいました。

ソ連と東欧社会主義諸国が崩壊したのは、人民の思想教育をおろそかにしたことにも起因しています。ソ連と東欧社会主義諸国は、人民にたいする思想教育をしませんでした。ソ連では1950年代の中期に現代修正主義者が権力を手にして以来、思想教育をいっさい放棄しました。かれらは社会主義・共産主義について宣伝したのではなく、金や自家用車、別荘などについてのみ宣伝しました。ソ連では30年ものあいだ思想教育をしなかったので、人民が思想的に変質し、結局はソ連が滅びたのです。

事大主義、大国崇拝主義に陥った後腐れ

かつてソ連の指導者たちは、人民大衆のなかに入らず、天井ばかり見つめて主観主義的に、官僚主義的に路線を立て、それを押しつけました。党の路線は人民の賛成と支持が得られなければならないもので、人民が反対しては実現されません。社会主義を建設するのは人民です。指導者たちが修正主義に走り、主観主義、官僚主義に陥って人民大衆から遊離したため、70余年間も革命をつづけてきたソ連が崩壊してしまったのです。ソ連はフルシチョフの時期から崩壊しはじめました。フルシチョフはプロレタリアート独裁を放棄したのです。

その一つは、それらの国の指導者が事大主義、大国崇拝主義におちいったところにあります。

これまで東欧社会主義諸国は、ソ連が「A」といえば「A」と唱和し、「B」といえば「B」といいました。それらの国ではなんでもソ連のするとおりにしました。以前、民主ドイツではソ連への崇拝心がはなはだしかったあまり、モスクワが雨だといえばベルリンでは雨が降らなくても雨傘をさして歩くとやゆされたものですが、これはその国の人民が自分の党指導部の事大主義を批判するアイロニーでした。東欧社会主義諸国はソ連を崇拝し、なにもかもソ連式にしたので、結局は滅びてしまいました。ソ連は「改革」をすると

しても、かれらまで盲目的に「改革」をしなければならない理由はないはずです。

以前の東欧社会主義諸国がなんでもソ連式をまねたのは、ソ連軍によって国が解放された事情と少なからず関連しています。それらの国の人たちは自分の力で国の解放をなしとげることができませんでした。ソ連軍がそれらの国を解放したのち、共産主義運動に参加していた人たちを集めて政権の座につけたので、かれらはソ連を崇拝せざるをえませんでした。

以前、ソ連は他の社会主義諸国が自分と一緒に合唱しないと悪もの扱いにし、社会主義の原則、国際主義的原則から逸脱していると圧力を加えたものです。

しかし、われわれにはいかなる圧力も効果がありません。以前フルシチョフはわたしに、朝鮮もセフ（コメコン）に加入すべきだと誘いましたが、わたしはそれを拒みました。わたしはかれに、われわれがセフに加入しなくても、自力更生して社会主義建設を順調に進めれば、それが国際主義に忠実であることになるのではないか、われわれがソ連に経済援助を要請せず自活すれば、それだけソ連の負担を軽減できるではないか、といいました。

それ以来、ソビエト人はわれわれを敬遠するようになりました。以前ソ連では、メーデーや 10 月社会主義革命の記念日に「偉大な社会主義共同体万歳」というスローガンをかかげたものです。かれらのいう社会主義共同体というのは、セフに加入した社会主義諸国の共同体でした。ですから、わが国のようにセフの構成国に属さない社会主義国は万歳を唱える対象にはなりませんでした。それでいつかソ連の人たちに、「偉大な社会主義共同体万歳」というスローガンを唱えるのは正しくない、万歳を唱えるなら社会主義諸国万歳と唱えるべきだ、われわれはセフに加入していないが、社会主義を成功裏に建設している、といってやりました。結局は事大主義におちいってセフに加入した東欧社会主義諸国はすべて滅びましたが、自主性を堅持してセフに加入しなかったわれわれは依然として健在です。

東欧諸国ではまた、執権者が社会主義的要求と人民の利益に反して官僚主義をほしいままにしました。社会主義社会において、主観主義、官僚主義は最大の禁物です。資本主義社会では経済が個人経営になっているので、当局者が官僚主義に走っても経済運営に大して影響を及ぼしません。しかし、社会主義経済は集団経営であるため、国家の指導的幹部が主観主義、官僚主義に走ると、経済建設に重大な結果をまねくようになります。それだけでなく、執権者が官僚主義的にふるまって人民の利益に反することを押しつけると、人民から遊離します。ですから、社会主義社会では、幹部が主観主義、官僚主義に走ってはならないのです。主観主義の度がすぎれば官僚主義になります。東欧諸国では執権者が官僚主義をほしいままにしたため、社会主義政権の崩壊をまねいたのだといえます。

東欧社会主義諸国が滅びた原因はつぎに、それらの国の指導者がはなはだしい官僚主義におちいったところにあります。

社会主義社会では、幹部が官僚主義におちいってはなりません。資本主義社会では国家を管理する人と経済を運営する人が別々なので国家統治者が官僚主義をふるって政治を誤っても営利事業をする人はこれといったさしさわりもなしに営利事業をつづけることができます。ところが、社会主義社会では事情が違います。社会主義社会では人民大衆が国家主権と生産手段の主人であるので、幹部がつねに人民大衆のなかに入ってかれらの要求を知り、人民大衆の意思と要求にそって国家を管理し、経済を運営しなければなりません。しかし、かつて東欧社会主義諸国の指導者は大衆のなかに入らず、執務室の天井やモスクワを見上げて政治をしました。かれらは人民大衆の意思と現実に合わない自分の主観的な意思が人びとに受け入れられないと、官僚主義的に押しつけました。そのため、人民から遊離し、最後には社会主義を滅ぼす重大な結果をまねくことになりました。

以前の東欧社会主義諸国の指導者のこのような事大主義的、官僚主義的過ちのためにそれらの国の社会主義が滅びたのであって、決して社会主義制

度そのものに問題があってそうなったのではありません。社会主義制度そのものは悪いものではありません。

個々の国の人民が革命闘争と建設事業を進めるうえでもっとも重要なのは、自分の力を信じ、自分の方式をとることです。あなたがたも自分の力、自国人民の力を信じ、自分の方式で革命を進める原則を一貫して堅持することです。革命は誰も贈与してくれません。革命の勝利は自分の力でかちとらなければなりません。

東欧社会主義諸国が崩壊したのは、それらの国の指導者が自国人民の力を信じ自分の方式で革命を進めたのではなく、事大主義に陥り他国に依存して革命を進めたところに重要な原因があります。

旧東欧社会主義諸国の指導者のソ連にたいする事大主義ははなはだしいものがありました。かれらは何事においてもソ連のやり方にしたがい、モスクワの指図に盲従しました。かれらはソ連の真似をして官僚主義的にふるまいました。かれらは人民の意思に沿って働かず、官僚化したので、人民から遊離しました。

資本主義社会では為政者が官僚主義的にふるまってもどうということはありません。それは個人主義にもとづく資本主義社会の特性と関連しています。資本主義社会では為政者がいくら官僚主義的にふるまっても、社会に大きな影響を及ぼしはしません。為政者が官僚主義的にふるまおうと、なにをしようと、金を儲ける人は金さえ儲ければそれでよいのであり、搾取者は搾取者であり、失業者は失業者であるのに変わりがないのです。

しかし資本主義社会とは違って、集団主義にもとづく社会主義社会では、幹部が官僚主義的にふるまってはならないのです。社会主義社会で幹部が官僚主義的にふるまえば、それが社会に及ぼす悪影響は甚大です。社会主義社会は人民のための社会であるので、指導者はつねに人民のなかに入り、かれらとともに生活しながら、人民がなにを求め、どのように働きくらしているのかを調べ、かれらが望むとおりの政治をしなければなりません。

…　…

以前ソ連では、10 月社会主義革命の記念日やメーデーのときに「偉大な社会主義共同体万歳」というスローガンを唱えたものですが、社会主義共同体とはセフに加入した国の共同体という意味なので、それに加入しなかった社会主義国は万歳を唱える対象から外されていました。セフには以前の東欧社会主義諸国がすべて加入し、モンゴルも加入しましたが、わが国は加入しませんでした。いつだったか、フルシチョフに会ったことがありますが、そのときかれは朝鮮もセフに加入するようにと進めました。それでわたしは、わが国はソ連と同盟条約を締結したのだからそれでよいではないか、わが国はセフに加入せず、自分の力で社会主義を建設する、と言いました。それ以来、ソ連の指導者はわが国を冷遇しました。

セフは計画を立案して構成国に押しつけ、構成国はセフの指示どおりにしなければなりません。わが国がセフに加入すれば、建設はどれくらいし、電力はいくら生産せよというように計画を立てて押しつけられるので、自分の考えどおり社会主義を建設することができませんでした。セフの構成国は劇場のようなものを一つ建てようとしても、承認を得ずには建てることができませんでした。現在わが国には劇場がたくさんありますが、それらをセフの承認を得て建てようとしたなら、おそらく一つも建てられなかったでしょう。わが国ではかなり前から国家と社会の負担で全般的な無料義務教育制と無料治療制を実施してきましたが、わが国がセフに加入していたなら、その実施に要する資金も提供してもらえなかったでしょう。セフに加入すれば、結局、それに拘束されて暮らすほかありませんでした。ソ連がつくったセフに縛られるようになっては、わが国がれっきとした自主独立国家とはいえないでしょう。セフに加入した以前の東欧社会主義諸国は国名こそそうでないとしても、実際はソ連の一加盟国にひとしい存在でした。以前のソ連の指導者はわれわれに圧力をかけてもむだであることを知っていたので、わが国を訪問しようともしませんでした。

帝国主義者の「平和的移行」戦略

いま帝国主義者は「平和的移行」戦略にもとづき、銃声なき戦争をくりひろげて社会主義を攻撃しています。そのため、社会主義運動内ではさまざまな事態が発生しています。ある人はすでに滅び、ある人は後退し、またある人は社会主義を放棄して敵に投降しています。いま社会主義運動は試練に直面しているといえます。だからといって、失望することはありません。

…ここ数年来、国際共産主義運動は大きな試練に直面している。帝国主義者の「平和的移行」戦略によって、ソ連と東欧社会主義諸国がすべて崩壊しました。こうなると、資本主義諸国の共産党に動揺する傾向がはなはだしくあらわれ、さまざまな不正常な事態が発生しました。ある党は党の名称をかえ、またある党は共産主義のスローガンを放棄し、はては自分の組織を解体する党まであらわれました。しかし、ラテンアメリカでは社会主義を放棄する傾向がそれほど見られません。われわれは、ラテンアメリカでキューバ共産党の影響のもとに社会主義運動が前進していることをうれしく思っています。

(3) 社会主義再建運動

1992 年 4 月朝鮮民主主義人民共和国の首都平壌では社会主義を擁護し前進させるという宣言が発表された。これは社会主義が依然として人民の心のなかに生きており、社会主義へ進む人類の志向は防げないことを示している。

金日成主席は社会主義の勝利の必然性にたいする確信をもって、世界の進歩的人士に会った機会に、帝国主義者と反動派の反社会主義策動を粉砕し、社会主義を再建しその運動を力強く前進させるうえで提起される諸問題を解明した。

平壌宣言の発表

昨年（1992年）の4月、わたしの誕生80周年にさいして、世界各国から多くの政党代表団と代表がわが国を訪問しましたが、かれらは平壌に集まった機会に協議して、社会主義偉業を擁護し前進させようという宣言を発表しました。これは非常によいことです。平壌宣言を発表した目的は、社会主義を志向する諸党が後退の状態を停止し、社会主義運動を前進させる準備をととのえるところにあります。平壌宣言が発表されてからほぼ1年がたちました。旧ソ連や東欧諸国の人たちはいまになって自分たちが社会主義を放棄して、資本主義を復活させたことを後悔しています。これらの国の人たちは、資本主義を復活させたばかりに失業者となり、物乞い同然になりました。資本主義にもどればアメリカから多くの援助をもらえるものと期待したのですが、期待は裏切られました。こんにち、社会主義運動は挫折から脱し、次第に収拾の段階に入っています。言いかえれば、社会主義運動は後退の局面から反転して前進する準備をととのえているといえます。旧ソ連や東欧諸国では社会主義を志向する党が再建されており、ラテンアメリカとアジアでも社会主義を志向する党が呼吸をととのえて再び前進する準備をしています。

人民の心のなかに生きている社会主義

帝国主義者は社会主義が壊滅したといっていますが、社会主義は依然として諸国人民の心に生きており、社会主義の再生をめざす新たな動きがあらわれています。われわれは現在のようなときこそ、社会主義をめざす諸党が団結し、いま一度エンジンをかけて力強く前進すべきだと思います。

求める必要のないモデル

社会主義をめざす党は、革命と建設におけるなんらかのモデルを求める必要はないと思います。個々の国の実情はそれぞれ異なります。したがって各国の実情にひとしく適応する処方というものはなく、またありうるわけも

ありません。マルクス主義はドグマではなく、創造的学説です。マルクス主義にたいする教条主義的な態度にはレーニンも反対し、スターリンも反対しました。われわれは、すべての国の党がそれぞれ自主的立場で、自分のやり方で革命と建設を進めるべきだと思います。朝鮮は朝鮮式に革命と建設を進め、スウェーデンはスウェーデン式に革命と建設を進めるべきです。

社会主義運動の歴史的教訓にてらして、社会主義をめざす闘争において自主性を堅持することは非常に重要です。まして現代は自主性の時代です。各国の党は現代の要請に即応して自主性の旗を高くかかげ、確固として社会主義の道を進まなければなりません。

3）非同盟運動の強化発展

金日成主席が非同盟運動の強化発展と世界の自主化のために傾けた労苦と心血は特筆すべきものである。

さる20世紀は世界的範囲で非同盟運動が強化され、自主化運動の波がはげしく立った世紀であった。

帝国主義者と支配主義者は日増しに発展する非同盟運動と世界の自主化運動を阻止、破綻するためにあらゆる手を尽くしたが、それを制止するなり、否定し抹殺するなりはできなかった。

非同盟運動と世界の自主化運動が曲折と陣痛を克服し、自らの健全な発展を続けるようになったことには、世界革命運動の卓越した指導者である金日成主席のエネルギッシュな思想理論活動を抜きにしては考えられない。

金日成主席は生涯の全期間、世界各国の多くの政界、社会界の人士に会って談話を交わしながら非同盟運動と世界の自主化運動の強化発展と関連した貴重な提案と思想理論を打ち出した。

その提案と思想理論には自主性を確固と堅持する問題、団結と協力を強化する問題、帝国主義者の分裂離間策動に覚醒を高め、阻止させる問題をは

じめ、多くの理論的・実践的問題が科学的に明示されている。

世界の情勢発展における非同盟運動の果たす役割

自主性を志向する時代のすう勢を反映して歴史の舞台に登場した非同盟運動は、これまで世界革命の発展と国際政治舞台で大きな役割を果たしてきました。

非同盟運動は、世界をブロックと勢力圏に分割しようとする列強の執ような試みを断固排撃し、あらゆる形の侵略と干渉、従属と不平等に反対して積極的にたたかってきました。これまで非同盟運動は、人民の自主権を擁護し、世界の平和と安全を維持するとともに、被抑圧人民の反帝民族解放闘争を支援し、国際関係において帝国主義者の専横を阻止し、国際問題を世界の進歩的人民の利益に即して解決するのに大きく寄与しました。

反帝・自主をめざす非同盟諸国の共同闘争は、国際情勢の発展と世界の革命的変革過程に大きな影響をおよぼしています。

非同盟運動は日ましに拡大されており、国際舞台で重要な役割を果たしています。非同盟諸国は、世界の広大な領土と多くの人口を擁し、原料、燃料という武器をもっているので、かたく団結してたたかえば帝国主義者を窮地に追いこみ、かれらの滅亡を促すことができます。また、これらの国がかたく団結し緊密に支持し協力しあうならば、強大国の手をかりなくても独立、繁栄の新しい社会を成功裏に建設することができます。

国際緊張を緩和するためには、まず非同盟運動をさらに拡大発展させなければなりません。現在、世界では二つの大きな軍事ブロックが対峙していますが、非同盟運動はブロックの外にある独自の政治勢力として、すべての軍事ブロックの解体を要求しています。非同盟運動を拡大発展させて、この運動により多くの国が加入するなら、互いに対峙している東西の軍事ブロックは無意味なものになるでしょう。

われわれは非同盟運動が、すべての軍事ブロックを解体して世界の各地域に非核地帯・平和地帯を設置し、世界の各地域にある外国の軍事基地を撤廃し、他国に駐留する外国軍隊を撤退させ、新たな世界戦争の誘因となりうる国際紛争問題を平和的に解決するため積極的にたたかうべきだと思います。そうしてこそ、世界の人民は二度と戦禍をこうむらないようになり、人民が自主的な国で平和的に幸せな暮らしをする条件をつくりだすことができます。

非同盟諸国をはじめ第3世界諸国、新興諸国は非同盟運動を広くくりひろげていますが、これも世界の平和を守り、緊張した国際情勢を緩和するうえで重要な役割を果たしています。

非同盟運動が独自の政治勢力として歴史の舞台に登場し、幅広い国際的運動に発展することによって、反帝・自主勢力は決定的に強化され、帝国主義反動勢力はいちじるしく弱体化しました。

こんにち、非同盟運動は世界情勢の発展と国際問題の解決において大きな役割を果たしています。非同盟諸国の団結したたたかいによって、各種の国際問題が新興諸国人民の要求と利益に即して正しく解決されており、国際舞台で列強が専横をほしいままにし、すべてを牛耳っていた古い秩序はしだいに崩れつつあります。非同盟運動はあらゆる支配と干渉、従属と不平等に反対し、新興諸国人民の自主権を守り、帝国主義者の侵略と戦争政策に反対し、世界の平和と安全を守るのに大きく寄与しています。

反帝反植民地主義の強固なとりで

非同盟運動は帝国主義、植民地主義の侵略と略奪に反対する威力ある運動であり、非同盟諸国は帝国主義勢力と対峙している反帝反植民地主義の強固なとりでであります。

非同盟諸国は、かつて帝国主義者の植民地支配から民族独立をかちと

った国ぐにです。帝国主義者はかつてこれらの国を過酷に抑圧し搾取したばかりでなく、これらの国が民族独立をかちとったあとも侵略と干渉をつづけており、新植民地主義的方法で搾取しようと悪らつに策動しています。したがって、非同盟諸国と帝国主義者のあいだには依然として深刻な矛盾があり、はげしい闘争がおこなわれています。

こんにち非同盟諸国は、帝国主義の侵略と干渉、略奪に反対し、民族の自主権を守り、国際問題の公正な解決をめざして力強くたたかっています。

非同盟運動の拡大発展は、帝国主義者に大きな打撃を与えており、世界人民の反帝共同偉業の勝利を促すうえに大きく寄与しています。またこの運動は、民族の独立と新しい社会の建設をめざす第3世界人民の闘争を強く励まし、世界各国間の団結と協力を強めています。

非同盟諸国、第3世界諸国は帝国主義勢力と対峙している現代の偉大な反帝革命勢力であり、社会主義勢力のたのもしい同盟軍であります。

第3世界諸国は、帝国主義植民地から民族独立をかちとった国ぐにです。帝国主義者は過去、これらの国を過酷に抑圧し略奪したばかりでなく、これらの国が独立を達成したのちにも、新植民地主義的方法による侵略と略奪を悪らつに企んでいます。それゆえ、第3世界諸国と帝国主義者とのあいだには依然として深刻な矛盾があり、はげしい闘争がくりひろげられています。

こんにち第3世界諸国は、帝国主義者の侵略と干渉に反対し、国の自主的な発展をめざして力強くたたかっています。

こんにち世界の人民はすべて自主性を求めており、いかなる形の従属にも反対しています。とくに帝国主義、植民地主義の従属から脱して新たに独立をかちとった第3世界諸国の人民は、自主の旗を高くかかげています。かれらは、帝国主義者の侵略と略奪、干渉策動をはねのけ、国の政治的独立と経済的利益を守るために、また国際舞台で、帝国主義者によってつくられた旧秩序をうちこわし、公正な新秩序を確立するために積極的にたたかっています。第3世界の人民は社会主義勢力のたのもしい同盟者です。

非同盟運動の隊列には、自主性を求める第３世界諸国、帝国主義に反対して勇敢にたたかっている革命的な国が結集しています。非同盟運動の隊列に革命をおこなう国が多く参加し、この運動をいっそう拡大発展させることは、きわめて大きな意義をもちます。

反帝自主は非同盟運動の根本理念、根本原則

反帝・自主は非同盟運動の根本理念です。

現情勢のもとで新たな戦争の危険を取り除き、真の世界平和を維持するためには、いつにもまして帝国主義に反対する闘争を力強く展開しなければなりません。

帝国主義との闘争を回避し、また帝国主義と無原則に妥協したのでは、真の平和を維持することはできません。ただ帝国主義に反対して断固たたかってのみ、帝国主義者の侵略と戦争策動を阻止、破綻させ、世界の平和を維持することができます。世界のすべての平和愛好勢力は、帝国主義者のいう偽りの「平和」にだまされてはならず、かれらの侵略と戦争策動に警戒心を高め、帝国主義に反対する闘争を力強くくりひろげなければなりません。

反帝闘争を力強く展開するためには、すべての反帝勢力がかたく団結し、国際的な反帝戦線を結成する必要があります。

こんにちアメリカをかしらとする帝国主義者は、諸国人民の革命闘争を抹殺し、かれらの侵略的野望を実現するため反革命連合を形成しています。このような状況のもとで、世界の反帝勢力をなしている真の社会主義諸国と第３世界諸国、国際共産主義運動と労働運動、植民地民族解放運動、そしてすべての民主主義的運動は国際的規模で広範な反帝統一戦線を結成し、帝国主義を徹底的に孤立させ、すべての地域、すべての戦線で帝国主義に集団的打撃を加えなければなりません。こうして、帝国主義者が平和の道を歩まざるをえないようにしなければなりません。

真の社会主義国の人民と第3世界諸国の人民、世界のすべての平和愛好人民がかたく団結して反帝闘争を力強くくりひろげるならば、帝国主義者の新たな戦争挑発策動を成功裏に粉砕し、世界の平和と安全を守ることができます。

帝国主義者は、旧国際経済秩序をひきつづき維持し、第3世界人民の富を略奪するため悪らつに策動しています。こうした状況のもとで第3世界人民は、旧国際経済秩序の擁護者である帝国主義に反対する闘争をひきつづき力強くくりひろげ、団結を強めなければなりません。第3世界人民の戦闘的団結は、旧国際経済秩序を成功裏に打破する確実な裏付けとなります。

団結と協力の強化

非同盟運動の崇高な理念と目的を実現するためには、非同盟諸国間の団結と協力を強化することが重要である。非同盟諸国の団結と協力の強化は、非同盟運動の不敗の力の源であり、反帝共同偉業の勝利の決定的な裏付けである。

非同盟諸国がかたく団結してたたかうならば、いかなる帝国主義をも打ち破って勝利することができる。非同盟諸国は団結して、帝国主義者によってつくられた旧国際秩序をうちこわし、世界人民の利益にかなった新国際秩序をうち立てるべきである。旧国際秩序は植民地主義制度の産物であり、帝国主義の支配と統制、搾取と略奪の主要な道具である。帝国主義者はこの旧国際秩序に依拠して他国の自主権を踏みにじり、発展途上諸国の資源を略奪している。旧国際秩序を一掃し、公正な新国際秩序をうち立て、帝国主義者がこれ以上国際舞台で専横をほしいままにし、他国の自主権をじゅうりんし、資源を意のままに略奪できないようにしなければならない。

非同盟諸国は政治的にかたく団結するだけでなく、経済的にも緊密に協力すべきである。非同盟諸国の緊密な経済協力は、新しい社会の建設におけ

る困難で複雑な諸問題を解決する重要な方途となる。非同盟諸国が有無相通ずる原則に立って多面的な経済・技術協力を発展させるならば、強大国の力をかりなくても十分自立的民族経済を建設し、国の繁栄をとげることができる。

非同盟諸国は政治的にかたく団結し、経済的、技術的に緊密に協力して国の自主的発展を促し、反帝共同偉業の勝利を促進すべきである。

非同盟運動の隊伍内にはやはり難関もあります。

非同盟諸国は隊伍内のあらゆる難関をのりこえ、非同盟運動の団結をめざしてたたかうとともに、自主性の旗を高くかかげ、より多くの国を非同盟運動の隊伍に結集するため努力しなければなりません。